倉敷埋蔵文化財 センター年報5

一平成9(1997)年度一

倉敷埋蔵文化財センターは、平成5年4月に開館して以来、5年の節目が経過いたしました。この間、倉敷市における埋蔵文化財保護の拠点施設として、発掘調査に、整理事業に、また普及事業にと微力ながら努力を重ねてまいりました。とりわけ、当センターの特色のひとつともなっている普及事業につきましては、生涯学習施設の中における埋蔵文化財センターの果たす役割を模索しながら、様々な取り組みをいたしてまいりました。

このたび実施いたしました平成9年度企画展『発掘くらしき ~わたしの町の遺跡展~』 もそのひとつであり、多数の市民の熱心な学習態度に接して、わたしたちの身近に残さ れている遺跡のひとつひとつについて、地域に根ざした保護の取り組みの重要性を改め て認識いたした次第です。

この年報は、平成9年度に当センターが実施いたしました発掘調査業務ならびに普及事業等の活動についての概要をまとめたものであります。この小冊子が、埋蔵文化財保護行政の一助として、また、埋蔵文化財に対する市民の一層の理解を深めるために、いささかでも役立つものであれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査をはじめ講座等センターの運営にあたり、ご指導ご協力を 賜りました関係の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも市民各位のより一層 のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成10年7月31日

倉敷埋蔵文化財センター 館 長 武 田 俊 宏

例 言

- 1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成9(1997)年度に行った、埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
- 2. 発掘調査は、倉敷埋蔵文化財センター主任福本明・同学芸員鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二・片岡 弘至が担当した。
- 3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
- 3. 本書の執筆は各担当者が分担して行い、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は鍵谷が行った。
- 4. 出土遺物の整理は倉敷埋蔵文化財センターで行い、整理にあたっては、内田智美・木曽敏江・大江 久仁子・三宅利恵子の協力を得た。
- 5. 調査地位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図に使用したのは、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものである。
- 6. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

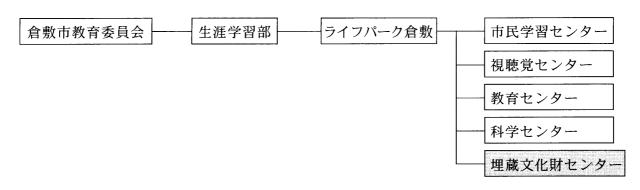
目 次

Ι	組 織	1
П	事業の概要	2
Ш	普及•啓発事業報告	4
	1.企画展「発掘くらしき ~わたしの町の遺跡展~」	4
	2. 企画展関連行事	
	3. 一般講座	6
	4. ライフパークの集い	9
W	調查事業報告	
14	奶 巨 于 挟 放 到 潮 木 却 <i>什</i>	10
	磐長古墳確認調査報告	13
	上東遺跡発掘調査報告	
	上東遺跡確認調査報告	15
	酒津一水江遺跡確認調査報告	16
	新吉岡橋南遺跡確認調査報告	
	亀山大日窯跡 3 号立会調査報告	
	酒津一水江遺跡確認調査報告	
	酒津一水江遺跡確認調査報告	
	下津井城跡発掘調査概要	21
V	寄贈図書一覧	23
D/ 1 /:		
附級	•••	
	荻野延治氏寄贈の資料	34
附級	扁 2	
	玉島乙島出土の亀山焼資料	37
附級		
	平井政雄氏寄贈の資料	39

I組 織

埋蔵文化財センターは、生涯学習施設であるライフパーク倉敷の中の一施設として、市域内の埋蔵 文化財に係る業務を一括して担当している。1997年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員 は下記のとおりとなっている。

倉敷埋蔵文化財センター機構図



ライフパーク倉	:敷 所長	能登	康行
埋蔵文化財セン	ター 館長	荻野	延治
"	主 任	福本	明
"	学芸員	鍵谷	守秀(科学センター学芸員兼務)
"	n,	小野	雅明
"	<i>"</i>	綾野	早苗
"	"	藤原	好二
"	"	中野	倫太郎(文化財保護課学芸員兼務)
"	"	片岡	弘至
"	嘱託	内田	智美
<i>"</i>	臨時職員	木曽	敏江
"	"	大江	久仁子
"	"	三宅	利恵子 (職名等は1998年3月31日現在)

平成9年度 埋蔵文化財センター運営協議会

```
会 長 間壁 忠彦(学識経験者)
副会長 河本 清( " )
委 員 余村 正雄(小学校校長会代表)
" 渡辺 浩(中学校校長会代表)
" 野上 拓士(高等学校校長会代表)
" 古谷野寿郎(学識経験者)
" 池田三重子( " )
" 宮口 公子( " )
```

Ⅱ事業の概要

1. 埋蔵文化財センター運営協議会

- (1)協議会 平成9年7月16日(水) 会場:ライフパーク倉敷「第3会議室」
 - 議 事 1. 平成8年度埋蔵文化財センター関係事業報告について
 - 2. 平成9年度埋蔵文化財センター関係事業計画について
 - 3. 先進地視察について
 - 4. その他
- (2) 視 察 平成9年8月21日(木)~8月22日(金)

島根県松江市・加茂町(島根県立博物館・八雲立つ風土記の丘資料館・島根県埋蔵 文化財調査センター・荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡ほか)

2. 調査事業

- (1) 発掘調査 全面調査1件、確認調査8件、立会調査16件を実施しており、ほぼ前年度並みの件数となっている。このほかに、開発面積が1,000㎡を越える事業についての事前協議は103件で、こちらもほぼ前年度並となっている。
- (2)分布調査 今年度は、前年度に引き続き児島地区を中心として行った。調査の時期が秋から 年度末に限られ、また他の事業との重なりもあり、踏査を実施した遺跡は約70遺跡 にとどまった。

3. 普及・啓発事業

(1) 企画展・講座

タイトル	開催日	回数	延べ人数
企画展「発掘くらしき」	98.1.20~98.3.15	_	3,041 人
春の遺跡見学会	97.5.10	1回	33人
親子ふれあい隊	97.5.18 • 6.29 • 7.13	3回	48人
親子考古学教室	97.7.12 • 8.2	2回	18人
チャレンジ!石器づくり	97.10.18 • 10.19	2回	26人
技術の考古学	97.11.15 • 11.22 • 11.29	3回	73人
くらしき 歴史探訪	98.2.21 · 2.28 · 3.7	3回	184人

(2) 報告書の刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報4 - 1996年度-

A 4版 本文56P 700部 1997年8月刊行

湾戸7号墳 一倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第7集-

A4版 本文27P 図版10P 700部 1997年3月刊行

(3) 貸出資料

年月日	貸出先	資 料 名		点数
平成9年				
6月21日	(株)雄山閣出版	秦原廃寺出土軒丸瓦	ŧノクロプリント	1点
8月10日	岡山県古代吉備文化財センター	王子が岳南麓遺跡	石器	14 点
			剥片・石核	8点
		王子が岳南麓遺跡遠景	, カラースライト゛	1点
		船倉貝塚	石器・骨角器	8点
		横内上池西窯跡	刻書須恵器	1点
		池尻遺跡	製塩土器	1点
11月14日	(株)小学館	中国渡来銭	カラー写真	3点
平成 10 年			 	
1月11日	(株)小学館	楯築遺跡全景	カラースライト゛	1点
2月3日	(有)地人館	中国渡来銭	カラー写真	1点

4. 寄贈資料

年月日	寄贈者名	資 料 名	点 数
平成9年			
10月29日	平井政雄	一尺谷上池遺跡出土石器 真弓池遺跡出土土器・石器 船元貝塚出土土器・石器 熊坂窯跡出土須恵器	整理用コンテナ1箱 整理用コンテナ1箱 整理用コンテナ1箱 1袋
平成 10 年			
3月31日	荻野延治	児島周辺遺跡出土石器	1袋

5. 利用者数

展示・講座等を含めた今年度の利用者数は下表のとおりである。開館日数293日に対し入館者数は13,657人で、1日平均46.6人が利用していることになる。月別の利用者数についてみると、1月・2月で前年を上回っているが他の月では軒並み減少しており、利用者総数では前年度比マイナス15%であった。

【平成9年度利用者集計表】

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開食	官日数	25	26	25	26	26	23	26	24	22	22	23	25	293 (日)
入	一般	488	735	406	562	852	574	701	627	223	473	1,229	645	7,515 (人)
館者数	児童 生徒	779	939	467	329	986	245	538	390	251	152	421	624	6,121 (人)
	合計	1,267	1,674	873	891	1,838	819	1,239	1,017	474	625	1,650	1,269	13,636 (人)

Ⅲ 普及•啓発事業報告

1. 企画展「発掘くらしき ~わたしの町の遺跡展~」

会 期 平成10年1月20日(火)~3月15日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「展示室」

対 象 一般

入場者 3,041人

今年度の企画展は、「遺跡をもっと身近に感じてもら おう」という趣旨のもと、倉敷市内の遺跡から出土し た様々な遺物にスポットをあてて行った。

展示は、各支所の単位である倉敷・庄・水島・玉島・ 児島の五つの地区に分けて行うことで、サブタイトル にもあるように、来館者が「わたしの町の遺跡」をより 実感できるように工夫した。各地区の展示は、資料的 価値の高いものや話題性のあるものを対象として構成 し、各地区の特色を出しながらも、遺物の種類・時代が 偏らないよう配慮した。

地元の遺跡に関する展示会ということで、開催前から新聞・テレビをはじめマスコミ関係の関心も高く、 多方面で宣伝していただいた結果、会期中は3,000人を 越える入館者を数えた。関連行事についても、例年を 大きく上回る応募者・参加者があり、改めて地域・地元 に密着した企画の重要性を認識させられた。

を担いる。 The interpolation and interpolation and





2. 企画展関連行事

1) 講演会「遺跡が語る古代のくらしき」

講 師 間壁忠彦

日 時 平成10年2月14日(土)

会 場 ライフパーク倉敷「中ホール」

対 象 一般

入場者 100人

今回の企画展をより身近に感じてもらうため、倉敷考古館館長の間壁忠彦先生に講演をいただいた。



倉敷の旧石器時代から古代まで、遺跡の紹介をまじ えながら、歴史背景を非常にわかりやすい語り口でお 話をしていただいた。

内容が地元を中心としたものであったため、ホール いっぱいの参加者が得られた。

2) 講座「くらしき 歴史探訪|

講師第1回河本清

「倉敷の遺跡と文化財」

第2回 大谷壽文

「児島の遺跡と文化財」

第3回 小野敏也

「玉島の遺跡と文化財」

会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」

対 象 一般

受講者 184人(延べ人数)

企画展関連講座という企画で、市内の文化財について3人の先生による講座を行った。

市内を倉敷・児島・玉島の3地区に分けて、各地区を中心にお話していただいた。

1回目は、河本清先生が倉敷中心部に存在する遺跡について、発掘調査の成果をスライドでまじえながら話された。先生が実際に携わった発掘調査の様子なども聞くことができ、理解しやすいものであった。

2回目は、大谷壽文先生による児島地区の話であった。先生が準備された下津井城跡のVTRを見たときは、臨場感あふれる遺跡の様子に参加者の評判も大変よかった。

3回目は小野敏也先生の玉島地区の話であった。 数々の遺跡の紹介と共に、先生の専門分野である古文 書の解読もまじえながら、郷土の歴史を解明していた。

今回の講座はテーマが地域密着型のものであり、定 員を上回る数多くの参加者があった。









3. 一般講座

1) 春の遺跡見学会

~下津井城跡~

講 師 藤原好二

日 時 平成9年5月10日(土)

対 象 一般

参加者 33人

春の遺跡見学会第2回目は倉敷市内唯一の近世城郭 である下津井城跡を中心に下津井地区の遺跡・文化財 を訪ねた。

当日はやや風があったが、暖かい陽がさし、親子連れも含めて多くの方の参加を得た。下津井城跡は石垣が大規模に破壊されており、わかりにくい点もあったようだが、参加者は皆、当センターの学芸員の話に熱心に耳を傾けていた。また、下津井地区の町並み、お台場などの案内も好評であった。





2) 親子ふれあい隊

~土笛をつくろう~

講 師 鍵谷守秀·片岡弘至

日 時 平成9年5月18日·6月29日·7月13日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「遺物整理室」

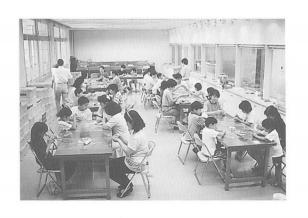
対 象 小学生と保護者

受講者 96人(延べ人数)

親子ふれあい隊は、ライフパーク倉敷の5センターがそれぞれ主催する講座を、親子で受講しながら各センターを回るというもので、今年で4回目になる。

今回当センターでは、はにわ粘土による土笛づくりに挑戦してもらった。低学年には少し難しいところもあったが、親子で協力して何とか完成させることができた。吹いて音を鳴らすには少しコツが必要で、最後まで音が出なかった子もいたが、土笛の出来上がりには皆満足している様子であった。





3) 親子考古学教室

~土器を作ってやいてみよう~

日 時 平成9年7月12日·8月2日(土)

会 場 埋蔵文化財センター 市立少年自然の家

対 象 小学校高学年と保護者

受講者 18人

夏休みの期間中に子供達に古代の生活にふれてもら おうというこの企画は、今年で5年目を数える。

今回はプログラムの見直しを行い、土器の野焼きを行った。1日目は、陶芸用粘土で思い思いの土器の製作を行い、この後3週間程度乾燥させた。2日目は、土器を1日かけて焼成した。土器を焼いている間に、子供達は「舞いぎり」を使って火おこしをして、復元した土器を使って炊飯を行った。大きな破損もなく、自分達の作った土器が火の中から出されると、子供達の歓声が夏の青空に響いていた。





4) チャレンジ!! 石器づくり

講師 藤原好二

日 時 平成9年10月18日(土)·19日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「遺物整理室」

対 象 一般

入場者 13人

体験講座として、石器の製作講座を実施した。ややマイナーな分野でもあり、応募者も比較的少なかったが、その分関心の高い人たちが集まったようだ。

まず、学芸員による石器の製作方法の説明と実演が行われた後、参加者による石器製作が始まった。初日は石槍、二日目は少し難しい石鏃の製作に挑戦した。 土器づくりなどと比べても難しい面があり、最後まで完成しない人もいたが、皆時間の経つのも忘れて石割りに熱中していた。





5) 技術の考古学

講 第1回正岡睦夫

「古代の稲作」

第2回扇崎 由

「古代の木器」

第3回 光永真一

「古代の製鉄」

日 時 平成9年11月15日·22日·29日(土)

会 場 ライフパーク倉敷「中ホール」

対 象 一般

受講者 73人(延べ人数)

今回の考古学講座では、「考古学からみた古代の技術」をテーマとし、稲作、木器、製鉄の3つの分野でそれぞれの専門的立場の講師による講演を開催した。

第1回目は正岡睦夫氏により、古代の稲作についてお話いただいた。はじめに日本での稲作受容のようすや稲作の研究史についてふれ、岡山県津島遺跡などの調査成果の概要を説明された。そして、近年話題となった、総社市の窪木遺跡と倉敷市福田貝塚から出土した籾痕土器についてもお話いただき、最近の研究の動向について興味深くお聞きすることができた。

第2回目は扇崎 由氏により、古代の木器についてお話いただいた。岡山市南方遺跡から出土した組合せ式箱、ジョッキ形容器、杓子などが紹介され、弥生時代の木工技術に目を見張った。木製品を作るには、用途に応じた特性の樹種を選び、そして製品の形に応じて木の部位を選定することが前提となっている。当時の人々の木に対する知識の高さを認識させられた。

第3回目は光永真一氏により、古代の製鉄について お話いただいた。吉備地方の重要な特産品である鉄が どのような施設で作られたのかを実際に検出された遺 構と模式図で具体的に提示し、これまでにわかった古 代の製鉄技術について説明された。また、製鉄炉の2つ の形式についてふれ、西日本に箱形炉が多く、東日本 に筒形炉が多いという興味深いお話があった。









4. ライフパークの集い

1) 古代のもようをうつしとろう

日 時 平成9年8月24日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「遺物整理室」

入場者 503人

ライフパーク倉敷の夏休み中のイベント「ライフパークの集い」にあわせて、埋蔵文化財センターの企画として行った。日頃考古学的な作業とは無縁な子供達に、考古学の世界の一端にふれてもらおうと、土器の拓本とりを企画した。初めて手にする数々の土器。小さな子供を対象としたため、土器には事前に和紙を張った。この和紙がやや乾燥したところで、墨をうつ。墨により「あぶりだし」のように土器の模様が浮き上がってくるたびに、驚きの声があがっていた。





2) 親子考古学教室作品展・写真展

日 時 平成9年8月24日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「展示室」

入場者 503人

親子考古学教室の紹介を兼ね、パネル写真展を行った。今年は、土器の野焼きという新企画であり、参加者の表情も例年に比べ真剣さがうかがえた。

粘土を片手に思いざおり成形できず、悪戦苦闘する 子供や、母親に手を差しのべてもらう子供。微笑まし い光景が回想された。また、土器焼きの日は、真夏の強 烈な太陽に負けず、額に汗して火おこしをする子供、 土器で炊いたご飯をおいしそうにほおばる子供。

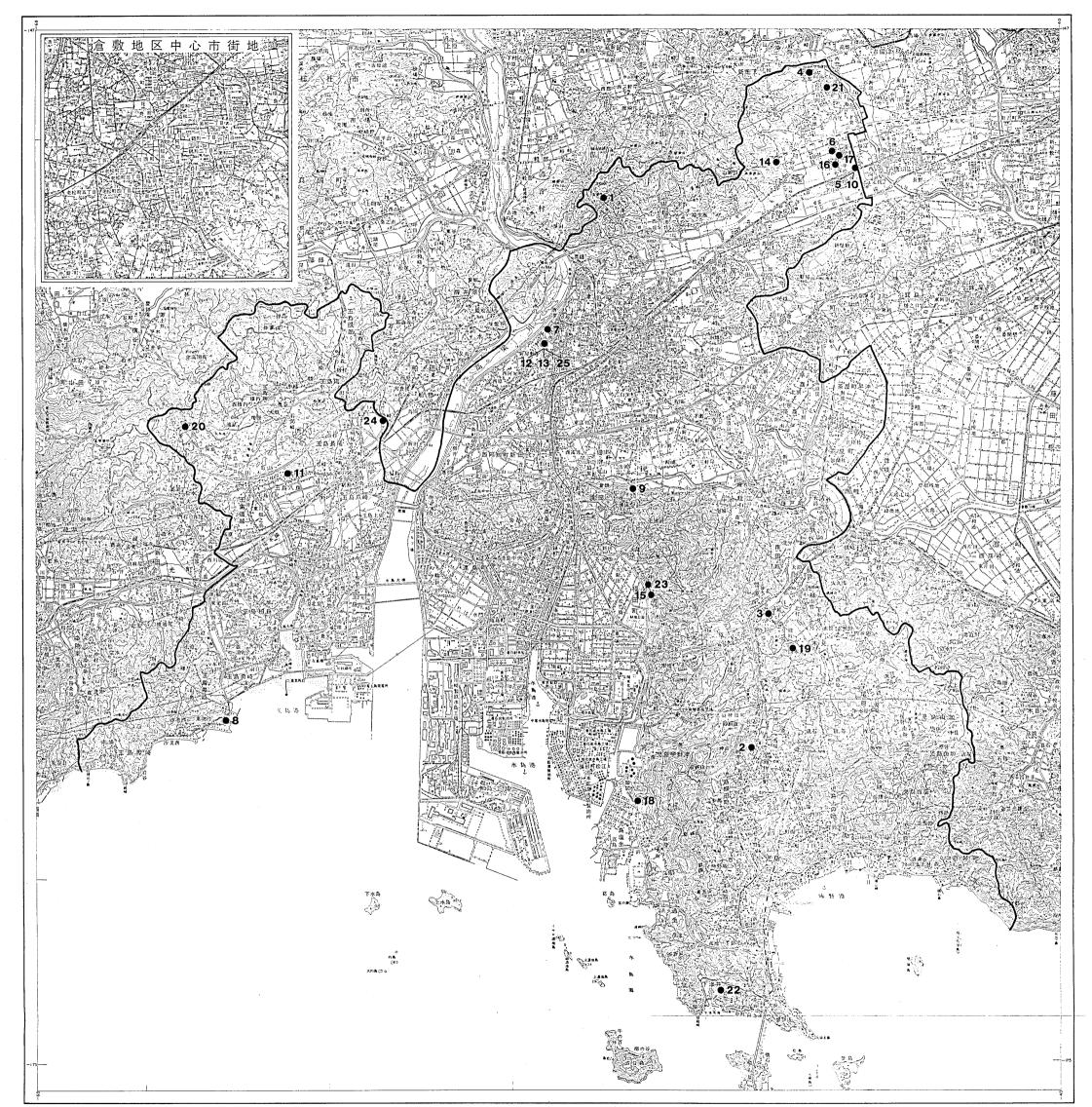
楽しい思い出のこの展示を見ることにより、さらなる参加者の増加を期待している。



Ⅳ 調査事業報告

1997年度調査一覧表

No.	遺跡名	調査地	調査原因	区別	調査期間	備考
1	浅原寺跡	浅原1573	下水道管埋設	立会	97.4.1	遺物・遺構無し
2	磐長古墳	児島稗田町字広免3890-1外2筆	資材置場造成	確認	6.5	"
3	曽原遺跡	曽原414	水道管埋設	立会	7.3	"
4	矢部寺田遺跡	矢部3154地先	水道管埋設	立会	8.21	"
5	上東遺跡	下庄字樋田86番5外2筆	社屋代替地造成	確認	8.27~8.28	ピット状遺構
6	上東遺跡	上東字神光寺662-1	分譲住宅造成	確認	8.29	中世土器片
7	酒津-水江遺跡	水江字柳原170外4筆	マンション建設	確認	9.9	遺物・遺構無し
8	小原南遺跡	玉島黒崎字矢崎4595	本堂改築	立会	9.9	"
9	新吉岡橋南遺跡	黒石字水谷1122番1	駐車場造成	確認	9.12	製塩土器・石器
10	上東遺跡	下庄字樋田86番5外2筆	社屋代替地造成	全面	10.1~10.9	弥生土器・中世土器
11	亀山大日窯跡3号	玉島八島字大日3440-1番地先	道路改良	立会	10.15	窯跡
12	酒津-水江遺跡	水江1348番地	分譲住宅	確認	10.21	遺物・遺構無し
13	酒津-水江遺跡	水江869-1,870-1	公園造成	確認	10.22	"
14	二子御堂奥遺跡	二子 1640-1,1642-1	道路改良	立会	10.28	"
15	湾戸遺跡	福田町福田嶽の下	道路改良	立会	11.11	"
16	上東遺跡	上東756	道路改良	立会	97.1.13	, "
17	上東遺跡	上東687-18地先	道路改良	立会	1.13	"
18	金浜遺跡	児島塩生3351-1番地先	水路改修	立会	1.14	ナイフ形石器
19	向木見遺跡	木見201,201-1地先	管理道路新設	立会	1.16	遺物・遺構無し
20	原ヶ市遺跡	玉島富115-3外	水路改修	立会	2.17	"
21	楯築遺跡	庄新町819-11	給水施設改修	立会	2.17	"
22	下津井城跡	下津井1103-5	学術調査	確認	3.3~3.31	陶磁器・瓦・石垣
23	湾戸遺跡	福田町福田字鯨	道路改良	立会	3.7	遺物・遺構無し
24	長崎北貝塚	玉島長尾654-1外	水路改修	立会	3.24	"
25	酒津-水江遺跡	水江885-1番地	水道管埋設	立会	3.25	"



いわなが

磐長古墳発掘調査報告

調 杳 地 児島稗田町字広免3890-1 外2筆

調 査 原 因 資財置場造成

調查面積 4 m²

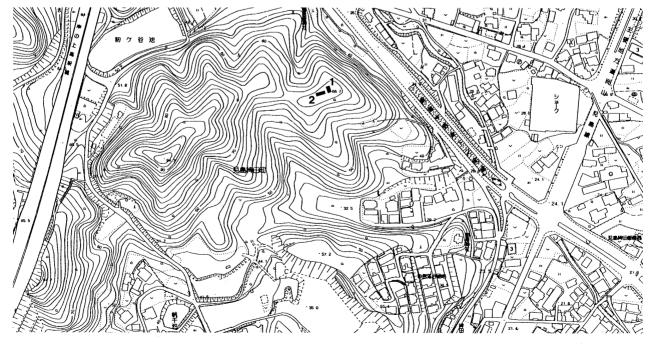
調査期間 970605

調査担当者 福本・小野・藤原

遺跡の概要 当該地は、県道岡山児島線と県道宇野津下之町線とが交差する稗田十字路の西方の 尾根上に位置しており、標高は頂部で66.7mを測る。尾根上の東端近くに径17m程の範囲で若干の高 まりがみられるところがあり、特に東側から北側にかけては、不整形ながら段差も確認されている。 また高まりの頂部には境界石として約50 cm四方の花崗岩を用いた石積みもみられることなどから、 古墳である可能性が指摘されていた地点である。

調査の概要 調査は、県道拡幅工事に伴う織物関係の工場の移転に際して、古墳の範囲を確認するために行ったものである。確認調査は、墳丘とみなされる高まりの北側および西側にそれぞれトレンチを設定し、断面の観察を中心に行った。北側のトレンチ1は、主体部の確認を意図して、石積みの境界石の際に設けた。ここでは、表土の下に厚さ10cm程の流土が堆積しているのみで、その直下は風化花崗岩の地山となっており、花崗岩の石材も含め、遺物・遺構とも検出されていない。また西側のトレンチ2は、墳丘端部の確認を目的とし、盛り上がり部分の末端に設定した。このトレンチについても北側のトレンチ1と同様で、表土下に約20cm程の流土が堆積しているのみで、その直下は風化花崗岩となり、遺構や遺物等は全く検出されていない。

今回の確認調査の結果、古墳に伴う遺物は全く検出されず、また石室等についても確認できないなど、従来磐長古墳とされていた高まりについては、むしろ自然の地形の一部であると考えたほうがよいと判断され、古墳と断定するにはいたらなかった。 (福本)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

じょうとう

上東遺跡 発掘調査報告

調 杳 地 下庄字樋田86番5外2筆

調 査 原 因 社屋代替地造成

調査面積 71㎡

調査期間 970827~970828 971001~971009

調査担当者 福本・小野・藤原

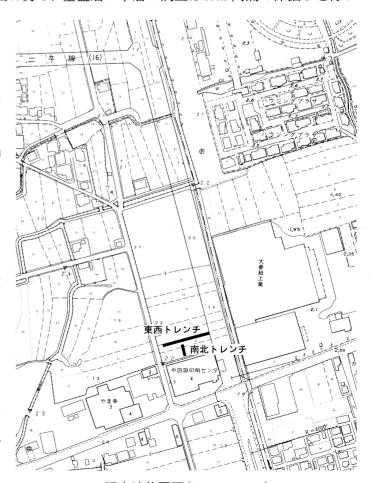
遺跡の概要 上東遺跡は、倉敷市北東部の沖積平野に立地する弥生時代を中心とした集落遺跡である。山陽新幹線や都市計画道路の建設に伴う発掘調査で集落の基盤である微高地群が確認されて以来、開発に伴う発掘調査が幾度か行われてきたが、広大な遺跡の範囲を明確に把握するまでには至っていない。しかし、1997年から岡山県古代吉備文化財センターにより行われている県道箕島高松線建設に伴う発掘調査で、弥生時代の「波止場」とみられる土手状の遺構が検出され、注目を浴びるとともに上東遺跡の南北の広がりを知る重要な手掛かりが得られている。

調査の概要 調査地は、岡山市撫川と接する倉敷市下庄の水田地帯で、先述の「波止場」の南約500m に位置している。現水田面の標高は約1.3mである。今回の調査は、本年8月に実施した確認調査で検出された包含層に相当する土層と微高地の状況を把握するため、社屋建設予定地内に長さ62m、幅1.5mの東西トレンチと長さ15m、幅1.5mの南北トレンチを設定して土層観察を中心に行った。発掘調査では基盤層上面まで掘り下げて遺構検出に努め、基盤層の下層の調査は15m 間隔で深掘りを行っ

たが、間もなく浸水により青灰色のシルト層がえぐられ、深掘り部分の壁面が全て崩壊したため、記録不能となった。

両トレンチでの土層堆積状況は、水田耕作土、床土、灰黄色土層に続き標高約0.9mで遺物包含層に相当する厚さ20cmから30cmの暗灰黄色粘質土層となる。この層の上部5cmくらいはマンガンがわずかに含まれている。その下は基盤層である黄褐色粘質土層が存在する。遺構については、床土直下の灰黄色土層上面で土壙が検出されたが、近世以降のものと思われる。遺物は床土と灰黄色土層から弥生土器、中世土器がわずかに出土した程度である。

今回の調査区において、微高地は水平に 広がっていることが確認された。遺物包含 層に相当する土層からの遺物の出土は確認 されず、明瞭な遺構も検出されなかった。



調査地位置図(S=1/5,000)

(小野)

じょうとう

上東遺跡確認調查報告

調 查 地 下庄字神光寺662-1

調 査 原 因 宅地造成

調査期間 970829

調査面積 4㎡

調査担当者 福本・小野・藤原

遺跡の概要 上東遺跡は、足守川流域に形成された沖積平野に立地する集落遺跡である。山陽新幹線や都市計画道路に伴う発掘調査で弥生時代を中心とした集落跡が確認されて以来、開発に伴う発掘調査等が年に数件の割合で行われている。調査地は、近年宅地化が進んでいる上東地区の水田地帯で、標高は約1.4mである。これより約120m北の集落地において、市道改良工事の際に弥生時代の遺構、遺物が確認されている。しかし、今回の調査地のそれぞれ南と東に接する市道の建設に伴う確認調査では、いずれも遺構、遺物包含層は確認されておらず、当該地には微高地が存在しないと予想される。

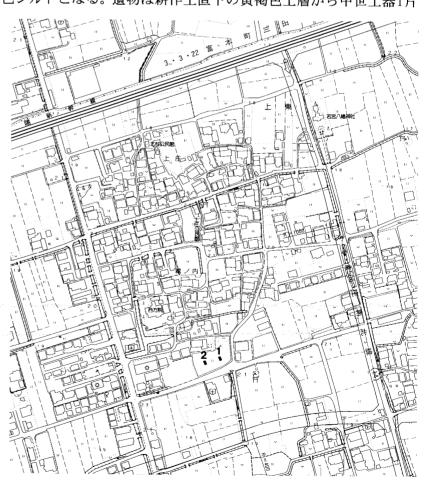
調査の概要 確認調査は、工事予定区域内の任意の2箇所に長さ2m、幅1m程度のトレンチを設定し、土層観察を中心に行った。

トレンチ1での基本層序は、水田耕作土、わずかに砂混じりの黄褐色土、黄褐色粘質土、オリーブ 褐色土と続き、標高約0.6mで黄灰色シルトとなる。遺物は耕作土直下の黄褐色土層から中世土器1片

が出土したのみである。

トレンチ2での基本層序もトレンチ1と同様である。即ち、水田耕作土、暗灰黄色砂質土、黄褐色粘質土、オリーブ褐色土と続き、標高約0.6mで黄灰色シルトとなる。遺物は出土していない。

以上のように、今回の調査区では、遺構、遺物包含層は検出されず、微高地の存在を示すものも認められていない。このことから、近接地における過去の確認調査の結果と同様に、微高地周辺の低湿地状の地形であったことが推測される。 (小野)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

さかづみずえ **酒津一水江遺跡**確認調査報告

調 査 地 水江170外 調 査 原 因 マンション建設

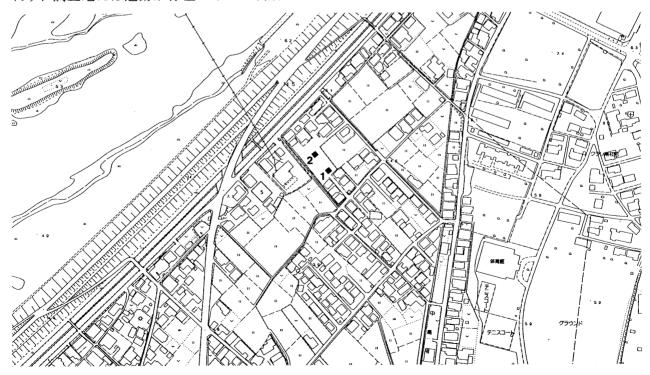
調査期間 970909

調 査 面 積 8 ㎡ 調査担当者 鍵谷・片岡

遺跡の概要 酒津-水江遺跡は、倉敷市の西部に存在する遺跡である。この遺跡は、高梁川の堆積により形成された沖積地に立地している。現在、遺跡の本体は水脈内に存在しているが、遺物の出土範囲から、弥生時代には、広範囲において集落の存在したことがうかがえる。この遺跡は、近代の河川改修により、水没するところとなった。なお、酒津-水江遺跡が「酒津式土器」の標識遺跡となっている。また、今回の調査地点西側の高梁川中洲部分では、平成7年度までの倉敷市教育委員会による遺跡範囲確認調査で、弥生時代の住居跡等が確認されている。

調査の概要 調査は、マンションの建設予定地内の建物部分に2m×2mのトレンチを2箇所設定し、 土層断面観察を行った。トレンチ1での基本層序は、造成土が0.8m盛られており、以下旧水田の耕作 土、水田床土と続く、この下の層は、鉄分を含む灰色シルトとなり、続いて灰黄色砂となる。前述の シルトと砂層の境目、地表下約1.3mからは水が多量にわきだしている。トレンチ1の北約28mに設定 したトレンチ2の基本層序もこれとほぼ同様である。ここでは、灰色シルトと灰黄色砂層の間に鉄分 を多く含む砂質の層が2層確認された。トレンチ2で水の湧きだす灰黄色砂層の上面は、現地表下約 1.5mとなっている。

以上のように、今回の調査では酒津-水江遺跡の主体である弥生時代以降の遺物、遺構等は確認されず、調査地には遺跡が存在しないと判断された。 (片岡)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

しんよしおかばしみなみ

新吉岡橋南遺跡確認調查報告

調 查 地 黒石字水谷1122番1

調 杳 原 因 駐車場造成

調査面積 4㎡

調 査 期 間 970912

調査担当者 福本・小野

遺跡の概要 新吉岡橋南遺跡は、倉敷市街中心地から南下する県道古城池・霞橋線が吉岡川を渡り、山裾にさしかかったところに位置する。かつて島であった児島の北岸に立地しており、古墳時代後期の師楽式製塩土器が発見されたことで知られる製塩遺跡である。

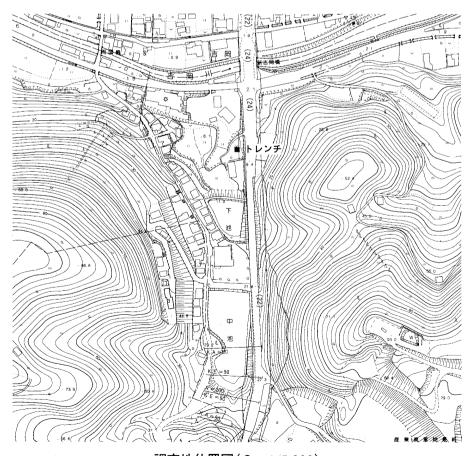
過去の調査では、1987年に県道西側にある当該店舗建設に伴う造成工事において、擁壁部分の掘削工事の際に立会調査を行っているが、遺構・遺物包含層は確認されていない。また、1988年に県道東側の山裾において、造成工事に伴う立会調査を行っているが、遺跡の存在は確認されていない。

調査の概要 調査地の現況は、谷地形を開墾した小さな区画の水田である。調査は、工事予定区域内のほぼ中央に1箇所、2m×2mのトレンチを設定し、土層観察を中心として行った。このトレンチの基本層序は、第1層耕作土、第2層黄褐色土、第3層灰色土、第4層暗灰黄色土、第5層自然礫を多く含む黄褐色土となる。第2·3·4層はマンガン粒を含み、土器片とサヌカイト製石器が出土している。出土土器は、小片で磨耗が著しいため詳細は明らかでないが、弥生土器と古墳時代の製塩土器があると思われる。遺構等は検出されず、遺物の出土状況から、これらの層は二次堆積と判断される。第5

層は地山層かあるいは地山層が土砂崩れ等により 二次堆積した層と考えられる。

以上のように、当該調査 地において、遺物を含んだ 土層が二次的に堆積した 状況が確認されてはいる が、良好に保存された遺物 包含層は検出されていな い。このことは、おそらく 開墾時に削平が行われ、付 近の包含層が破壊された ことを示すのであろう。

(小野)



調査地位置図(S=1/5,000)

かめやまだいにちかまあと

畠山大日窯跡3号立会調查報告

玉島八島字大日3440-1番地先 杳 地

調査原因 市道改良工事

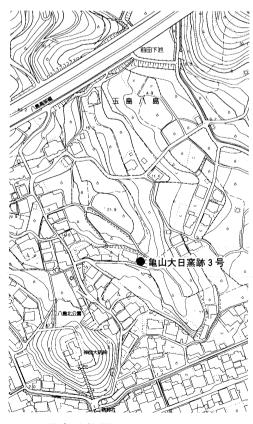
調査面積 12 m²

調査期間 971015 調査担当者 福本・小野・片岡

遺跡の概要 亀山大日窯跡3号は、中世古窯のひとつで、須恵器の系譜を引く亀山焼を焼成した窯 跡である。窯跡群は倉敷市西部、玉島八島の神前神社周辺の丘陵斜面に立地する。以前は、市史跡に 指定されている神前神社境内の窯跡群を中心とした狭い範囲で捉えられていたが、岡山県古代吉備 文化財センターにより実施された山陽自動車道建設に伴う発掘調査により、その分布範囲が北に大 きく延びていることが明らかとなった。この調査では、保存の良好な窯跡、灰原など窯業関連の遺構 や掘立柱建物、墓跡、貝塚などの生活遺構が検出されている。

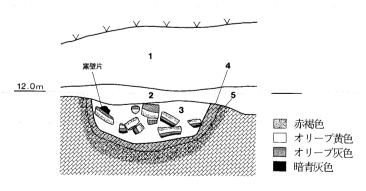
調査の概要 調査地は、神前神社の北東約150mの地点で、桃・梨を栽培している果樹園の一角で ある。窯跡は、段々畑を造成した民家敷地の下に存在し、敷地を切る市道法面に分断される状態で 残っている。かつて、出入口の階段を作るのに道路法面を50cm程奥に削ったため、窯体断面の一部 が露出したままになっていた。今回の市道改良工事でこの部分をコンクリート擁壁で覆うことになっ たため立会調査を行った次第である。なお、調査は工事中に窯体断面の全容が露頭した際に土層断面 観察を行ったものであるが、窯跡のどの位置で切断されたものか判断できない。

窯跡は上部を旧耕作土により削平されている。窯体の断面は船底形で、内法の幅160 cm、高さ55 cm



調査地位置図(S=1/5,000)

を測る。窯の埋土中には天井・側壁のものとみられるブロッ ク状の窯壁片が混入している。床面に粘土を貼った様子はな く、地山を掘り込みそのまま使用している。床面はよく焼け 締まっていて、厚さ約10cmの灰白色に変化した還元層がみ られ、その外周に厚さ10cm~20cmの赤褐色の被熱層がある。 遺物は出土していない。 (小野)



- 1. にぶい黄褐色土(造成土)
- 2. 黄褐色土(旧耕作土)
- 3. 褐色土(窯内埋土)
- 4. 地山が灰白色に還元した層
- 5. 地山が明赤褐色に被熱した層

窯跡断面図(S=1/50)

さかづみずぇ **酒津ー水江遺跡**確認調査報告

調 查 地 水江字中用水西885-1

調 査 原 因 宅地造成

調査面積 4㎡

調査期間 971021

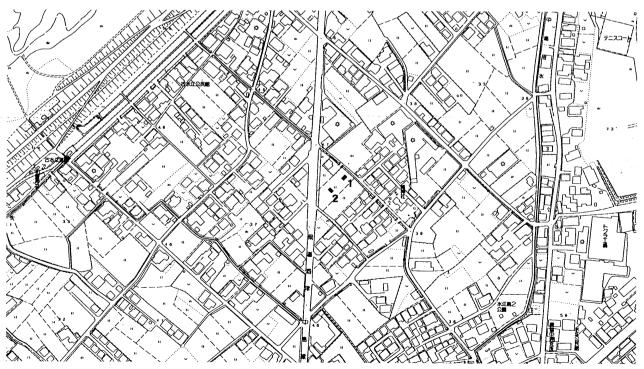
調查担当者 鍵谷・藤原

遺跡の概要 酒津-水江遺跡は高梁川の運んできた土砂によって形成された沖積地に立地しており、弥生・古墳時代にはこの付近が河口であった。遺跡からは弥生時代中期から古墳時代にかけての遺物が多量に出土しており、大規模な集落が存在したことがうかがえる。現在遺跡の大部分は河川改修によって川の中になってしまっている。最近の調査では、平成8年(1996年)に400m南西の地点で宅地造成に伴う確認調査を行っているが遺構・遺物は確認されていない。

調査の概要 調査地は高梁川の東岸の水田地帯で県道酒津-中島線沿である。調査は工事区域内に2箇所のトレンチ(1.0×2.0m)を設定し、土層観察を中心として行った。両トレンチは約26m離れており、若干の相違は認められるが基本的に土層堆積の状況は同様である。トレンチ1では水田耕作土の直下に砂層が認められる。砂層は2層に分かれ、下の層は目が粗く水が湧き出している(地表下約45cm)。砂層の下は青灰色のシルト層が続き、その下はさらに砂層が認められる。トレンチ2では水田耕作土の下にやや厚く床土が堆積し、その下から砂層が始まる。砂層は3層に分かれ、一番下のやはり目の粗い砂層から水が湧き出している(地表下約60cm)。このことから湧水層は西に向かって下がっているようである。砂層の下は粘質土が堆積している。両トレンチとも湧水により側壁が崩壊していくため、これ以上の調査は不可能であったが、遺物・遺構は全く検出されなかった。

以上ことから、酒津-水江遺跡は当該地までは延びていないと判断される。

(藤原)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

さか ブーみ ず え **酒津ー水江遺跡**確認調査報告

調 査 地 水江869-1,870-1

調 査 原 因 公園造成

調査期間 971022

調査面積 6㎡

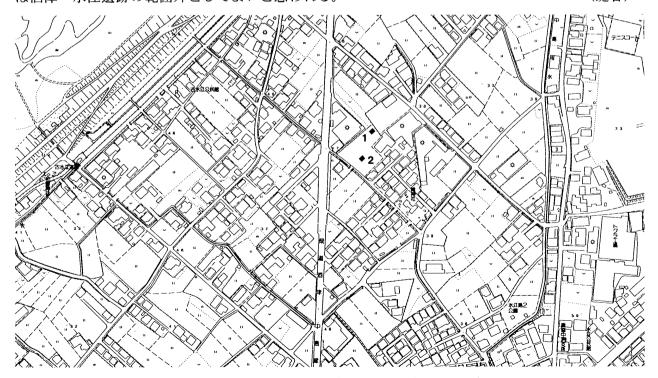
調查担当者 鍵谷・藤原

遺跡の概要 酒津-水江遺跡は、高梁川の河川敷を中心として堤防の東側にまで及ぶ広大な範囲が想定されているが、昭和58年度以来、18次にわたる範囲確認調査によりその範囲はおおむね3地点に絞られることが明らかとなってきた。また、堤防外については、かつて南部水道企業団の敷地でまとまった数の土器が出土した以外は、この近辺を含めて遺物・遺構等は確認されておらず、遺跡の範囲はかなり限定されるものと思われる。なお、当該地は前ページの調査地から道一本挟んで北側に隣接する地点である。

調査の概要 調査は、公園造成地内に1.5×2.0mのトレンチを2箇所設定して行った。

トレンチ1では、約50cmの造成土の下は旧耕作土、水田床土となり、その下には3層の砂層が認められた。この下は褐灰色の粘質土となるが、砂層との境からは水が湧き出しこれ以上の掘り下げはできなかった。トレンチ2は、トレンチ1の南約35mの地点に設定した。基本的に土層の堆積状況は同じで、2層ある砂層の下からはトレンチ1同様湧水が認められた。

どちらのトレンチも旧地表下約60cmで湧水が認められ、それ以上の調査は不可能であったが、遺物・遺構等は確認されなかった。両トレンチの状況は、旧地表下60cm程度の深さの砂層から湧水が認められるなど、前ページにおけるトレンチの状況とほぼ一致しており、これらのことから、この付近は酒津-水江遺跡の範囲外としてよいと思われる。 (鍵谷)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

しもついじょうあと

下津井城跡発掘調査概要

調 査 地 下津井1103-5

調 査 原 因 学術調査

調査面積 22 m²

調査期間 970303~970331

調査担当者 福本・藤原

遺跡の概要 下津井は瀬戸内海の中でも本州と四国との距離が最も接近する部分で、海上交通を 掌握する絶好の場所である。慶長8(1603)年に岡山藩家老池田長政が城主となり、現在見られるよう な総石垣の近世城郭に整えたとされる。東西に細長い連郭式の構造で、本丸を中心に南側に二の丸、 西側に西の丸、東側に三の丸を配置している。また、三の丸の東には堀切を挟んで中出丸、さらに東 出丸など、宇喜多時代のものと考えられる郭も残っている。

寛永16(1639)年に廃城となり、建物はもちろん石垣も角部を中心に徹底的に破壊されている。また、絵図や文献などの史料も非常に限られているため、構造など不明な点が多い。今回は天守台石垣と本丸の東小口の構造の把握を目的として調査を実施した。

調査の概要 トレンチ1は天守台の東側にその構造を把握する目的で設定した。その結果、天守台 東面の石垣は四〜五段、高さ約2.6mが残存していることが判明した。天守台の南東角部は地山の上

に三層(約80 cm)の盛土を 行い、その上から築き始め ている。角石の下には10~ 20cm大の捨て石を行って石 垣が沈み込むのを防いでい るものと考えられる。ま た、トレンチの北端では地 山を確認できず、また捨て 石も認められなかった。石 垣は割石を用いた打込矧ぎ の技法で積まれており、 コーナーは直方体の石を井 桁状に組んでいく算木積み が用いられている。下から 4段目の石の一つには、軍 配を模したかとも考えられ る刻印が認められる。

城が機能していた時代の ものと考えられる面は標高 約86.4m、最下段の石を10



トレンチ配置図(S=1/2,000)

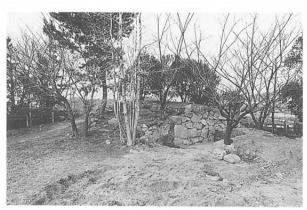
~20 cm程度埋めた状態である。この層の上には廃城時に形成されたと考えられる層が堆積している。まず、漆喰と瓦を含む層が堆積する。この層は石垣に接する部分が約40 cm、遠ざかるほど薄くなっていく。この上には木炭を多量に含み、唐津焼・土師質灯明皿などの遺物を含む層があり、さらにその上には瓦を多量に含む層が堆積する。一番上に石垣を崩した石が積み重なっている。

遺物としては、多量の瓦と陶磁器等がある。瓦は巴紋の軒丸瓦、桐紋の軒平瓦を主体とし、若干用途の不明な物が含まれる。瓦以外の遺物は主に木炭を含む層から出土している。主なものをあげると、唐津焼椀3点、天目茶碗2点(産地未確認)、備前焼徳利1点、青磁破片、中国産陶磁器、土師質灯明皿10点以上、鉄製包丁1点、元豊通宝他銅銭数点、土錘等である。また、サザエ・アワビ・サルボウなどの貝類、木炭に混ざって多量の魚骨も検出された。魚骨には鯛が含まれているようである。

これらの遺物は建物の壁を崩したと考えられる 漆喰を含む層と石垣を崩した層の間から出土して いる。また、完形のものも多く、日常生活の残滓と 考えるよりは廃城時に何らかの祭祀を行ったこと によるものと考えたほうが適当であろう。

トレンチ2・3 は本丸の東小口の構造の把握を目的に設定した。トレンチ2 は本丸東小口のおそらく門が立っていたであろう石垣の東側に設定した。深さ 1.7m まで掘り進んだが、崩された石が折り重なっており途中で掘削を断念せねばならなくなった。しかし石垣は5段以上が残存し、打込矧ぎで積まれていることが判明した。

トレンチ3は本丸の東小口から二の丸に降りる石段の検出を目的として設定した。その結果、石段は検出できなかったが、トレンチ2で調査した石垣から約6m東に対面する石垣の基部を確認できた。二つの石垣の間はやや急なスロープとなっている。新たに発見された石垣は二の丸の北側、東屋の裏の石垣とぶつかりコーナーを形成する。このことから本丸へのルートは現在のように三の丸方向からまっすぐ西向きに進入するのではなく、南側の二の丸から数度の折れを経由して進入する可能性が高くなった。しかし石段が確認されていないため、もう少し広い範囲で調査を行う必要があり、来年度の課題となった。(藤原)



天守台全景



遺物出土状況



トレンチ3

Ⅴ 寄贈図書一覧 (97.4.1~98.3.31)

【北海道 01】

(財)北海道埋蔵文化財センター

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

【青森県 02】

田舎館村歴史民俗資料館

【岩手県 03】

(財)岩手県文化振興事業団 平泉町教育委員会

【宮城県 04】

多賀城市埋蔵文化財調査センター

仙台市富沢遺跡保存館

【秋田県 05】

秋田県埋蔵文化財センター

【山形県 06】

(財)山形県埋蔵文化財センター 米沢市教育委員会

【福島県 07】

(財)郡山市埋蔵文化財 発掘調査事業団

(財)いわき市教育文化事業団

会津若松市教育委員会

福島市教育委員会

キウス4遺跡、キウス5遺跡(3)、キウス5遺跡(4)、キウス7遺跡(4)、テエタ創刊号、テエタ第2号、ルルマップ15遺跡、滝里遺跡群VII、中野B遺跡(III)、調査年報9-平成8年度・、調査年報10-平成9年度・、美々・美沢-新千歳空港の遺構と遺物・、美沢川流域の遺跡群XIV、美沢川流域の遺跡群XX、鳴川右岸遺跡・桜町遺跡

とまこまい埋文だよりNo.42·No.43、苫小牧の埋蔵文化財 No.10[縄文時代・早期編]、苫小牧市美沢東遺跡群発掘調査概要報告書IV、苫小牧市埋蔵文化財調査センター概要No.13、柏原5遺跡、美沢10遺跡

垂柳遺跡発掘調査報告書(9)

紀要XVI

花立遺跡第7次発掘調查報告書、高田遺跡第1次発掘調查報告書、志羅山遺跡第26·27次発掘調查報告書、志羅山遺跡第35次発掘調查報告書、東北電力鉄塔用地発掘調查報告書、平泉遺跡群発掘調查報告書 -平成6年度-·平成7年度-·平成8年度-、平泉遺跡群範囲確認調查報告書、柳之御所跡第45次発掘調查報告書

高崎遺跡、山王遺跡 I、市川橋遺跡 -第18・21次調査報告書-、小沢原遺跡 -第3次調査報告書-、城柵の時代 -律令制下の東北-、新田遺跡 -第15・17・18次調査報告書-、西沢遺跡、多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 -平成7年度・・平成8年度-、大日北遺跡、八幡沖遺跡、留ヶ谷遺跡

ネアンデルタール人の復活、市民文化財研究員活動報告書1・2、地底の森第3号~6号、地底の森ミュージアム年報-第1号-

遺跡詳細分布調査報告書、秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第12号、秋田県埋蔵文化財センター年報15、小田V遺跡、池内遺跡遺構編、払田柵跡 -第107~109次調査概要-

年報 - 平成8年度 - 、埋文やまがた 第7号

遺跡詳細分布調査報告書 第10集、台ノ上遺跡発掘調査報告書、米沢市文化財年報 No.10

阿良久遺跡 -1区調査報告・、阿良久遺跡 -第1次発掘調査報告・、安子島城跡、音路瓦窯跡、下羽広遺跡、郡山市埋蔵文化財分布調査報告3・4、郡山東部18~22、咲田遺跡 -赤木地区第5次調査報告・、正直 B遺跡、清水台遺跡 -第18・19・20次調査報告・、清水内遺跡 -1・2・3区調査報告・、清水内遺跡 -4区調査報告・、西原遺跡群、大安場古墳群、夢田遺跡(第4次)・山田 C遺跡(第1次)・岩ヶ作遺跡(第2次)、鳴神・柿内戸遺跡

いわき市教育文化事業団研究紀要 第8号、永田遺跡、根岸遺跡、泉町C遺跡、登館 跡、文化財ニュースいわき 第55号

あいづわかまつ文化財だより 第4号、会津レクリエーション公園整備に伴う発掘調査概報 I (平成8年度)、若松北部地区県営ほ場整備事業発掘調査概報 V (平成8年度)

福島市の中世城館 I ~Ⅲ、福島市埋蔵文化財分布地図

【茨城県 08】

ひたちなか市 埋蔵文化財調査センター (財)ひたちなか市

文化・スポーツ振興公社

土浦市教育委員会

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

【栃木県 09】

(財)栃木県文化振興事業団

栃木県教育委員会 小山市教育委員会

佐野市教育委員会 足利市教育委員会

【群馬県 10】

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県立歴史博物館

【埼玉県 11】

(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県立埋蔵文化財センター 所沢市立埋蔵文化財調査センター

飯能市教育委員会

鶴ヶ島市教育委員会

春日部市教育委員会 埼玉県教育委員会 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター年報第2号、ひたちなか埋文だより第6号・7号、平成8年度市内遺跡発掘調査報告書報告書

ひたちなか市の考古学 vol.1、フィールドノート vol.9

国指定史跡上高津貝塚整備事業報告書、石橋南遺跡、長峯遺跡、土浦市養老田遺跡、土浦城(外丸御殿跡)発掘調査報告書、入ノ上遺跡、柳沢遺跡・養老田遺跡・寿行地北遺跡、六十原A遺跡

花室川の歴史と文化、上高津貝塚ふるさと歴史の広場パンフレット、上高津貝塚 ふるさと歴史の広場年報第1号・第2号、上高津貝塚ふるさと歴史の広場要覧、仏 のすまう空間 -古代霞ヶ浦の仏教信仰-

やまかいどうNo.15~No.17、横倉戸館遺跡、温泉神社北遺跡、下り遺跡・二本木A 遺跡・二本木B遺跡、下野国分寺跡VII、外城遺跡(鷲城跡)、柿の内遺跡・下台原南 遺跡、間々田地区遺跡群 I、金山遺跡IV・V、研究紀要第5号、戸木内遺跡 (第4次調 査)、三輪仲町遺跡、山海道遺跡、小倉水神社裏遺跡・水木東遺跡、西裏遺跡、大曲 北遺跡・小橋 I 遺跡、藤岡神社遺跡 (遺構編)、道下遺跡、那須官衙関連遺跡IV、八 幡根遺跡、品川台遺跡、埋蔵文化財センター年報第7号 (平成9年度)、野木Ⅲ遺跡 栃木県埋蔵文化財保護行政年報19-平成7年度-

宮内東遺跡、寺野東遺跡緊急発掘調査報告書、足形遺跡発掘調査報告書、琵琶塚 古墳発掘調査報告書、牧ノ内 I-方形周溝墓・住居跡編-

上林北遺跡・上林Ⅱ遺跡・追手遺跡

よみがえる中世寺院 -樺崎寺跡の発掘調査-、口明塚古墳発掘調査報告書、彦谷西山遺跡第1次発掘調査報告書、文選第11号墳発掘調査報告書、平成7年度文化財保護年報

遺跡に学ぶ第8号、研究紀要14、荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ、黒熊八幡遺跡、出土した古代の土器、小島田八日市遺跡、上栗須寺前遺跡群Ⅲ、新保田中村前遺跡、神保植松遺跡、吹屋瓜田遺跡、多比良追部野遺跡、中江田八ツ縄遺跡、中宿在家遺跡・上豊岡一里塚遺跡、中沢平賀界戸遺跡、長根安坪遺跡、天引狐崎遺跡Ⅱ、年報-16-、波志江今宮遺跡、白井遺跡群-古墳時代編-、白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡、飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡、埋文群馬No.28、矢田遺跡Ⅶ・Ⅷ、緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡、笂井中屋敷遺跡、

群馬の遺跡2-発掘最前線'97-

研究紀要第13号、原/谷畑、戸崎前遺跡、五関中島/堤根、広木上宿遺跡-縄文時代編-、今井川越田遺跡 II、山王裏/上川入/西浦/野本氏館跡、石神貝塚、大山遺跡第9次、滝の宮坂遺跡、築道下遺跡、東町二丁目遺跡、年報17-平成8年度-、

埼玉県立埋蔵文化財センター年報6・年報7、埋文さいたま第26号〜第28号 後内手遺跡・東の上遺跡、市内遺跡調査報告3、所沢市立埋蔵文化財調査センター 年報No.2、和田遺跡第18次調査、和田遺跡第20次調査

近世宝篋印塔内納入銅板経調査報告書、栗屋遺跡第5次調査、新井原遺跡・榎戸遺跡、飯能の遺跡(21)~(23)、飯能の絵馬-描かれた祈り-、飯能文化財時報-第117号-・-第118号-

一天狗遺跡・雷電池東遺跡、羽折遺跡A、向山遺跡・仲山遺跡・浅間塚・新右衛門遺跡第6次調査、上山田遺跡、鶴ヶ島市の文化財、鶴ヶ島中学西遺跡

浜川戸遺跡18次・小渕山下遺跡・花積内谷耕地遺跡4次

埼玉県埋蔵文化財調査年報 -平成7年度-

【千葉県 12】

(財)印旛郡市文化財センター

(財)山武郡市文化財センター

(財) 香取郡市文化財センター

(財) 千葉県文化財センター

(財)総南文化財センター 市川市教育委員会

船橋市教育委員会 野田市教育委員会

芝山町教育委員会 白井町教育委員会 国立歴史民俗博物館

千葉市立加曽利貝塚博物館 東邦考古学研究会 山武考古学研究所

【東京都 13】

(財)東京都教育文化財団

北区教育委員会 地下鉄7号線溜池·駒込間遺跡調査会 葛飾区教育委員会 足立区立郷土博物館 港区立港郷土資料館

都立府中病院内遺跡調査会 東京都立大学考古学研究室 早稲田大学

【神奈川県 14】

横須賀市教育委員会

平塚市教育委員会

藤沢市教育委員会 諏訪町 C遺跡発掘調査団

【富山県 16】

(財)富山県文化振興財団

吉見台遺跡 B 地点、吉高浅間古墳発掘調査報告書、小菅三ツ塚遺跡、太田向原遺跡発掘調査報告書、大室十三塚、南鳥羽遺跡群 I

稲荷谷Ⅱ遺跡、研究ノート山武創刊号、御田台遺跡、根本遺跡、鷺山入遺跡、山田・宝馬古墳群、松尾城跡Ⅰ、上吹入城跡、森台遺跡群、大網山田台遺跡群Ⅲ・Ⅳ、藤ヶ谷遺跡・大平台遺跡・中ノ台遺跡・馬場A遺跡、文化財かわら版第8号・第9号、油井古塚原遺跡

かとり第2号、桜之宮1号墳、事業報告VI-平成7年度-、多古台遺跡群No.8地点Ⅱ、中ノ台遺跡A地区、津宮毘沙門遺跡、反鍬遺跡、名号戸遺跡

研究連絡誌第49号~第51号、千葉県文化財センター年報No.22 -平成8年度-、房総の文化財vol.13・vol.14

横山白山台遺跡、大久保遺跡、谷口遺跡・吹良遺跡、十島田遺跡

庚塚遺跡第5地点、市川市出土遺物の分析 -古代の鉄・土器について-、須和田遺跡 第6地点、平成元年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告

夏見台遺跡 -第10次発掘調查報告書-

のだ文化財だより第10号、西山遺跡現地説明会資料、平成8年度野田市内遺跡発掘調査報告

平成8年度芝山町内遺跡発掘調查報告書、武射No.15

河原子台Ⅱ-2・3遺跡発掘調査報告

国立歷史民俗博物館研究年報4、国立歷史民俗博物館研究報告第70集·第71集·第73集·第74集

炎のくにの貝塚、加曽利貝塚

東邦考古21

業務経歴、山武考古学研究所年報No.14·No.15

たまのよこやまNo.40~No.42、丘陵における文化の醸成、資料目録9、汐留遺跡、東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集~第43集・45集~48集、東京都埋蔵文化財センター研究論集 X VI、東京都埋蔵文化財センター年報17、尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要 V

下十条遺跡、御殿前遺跡V、中里貝塚1997

四谷御門外橋詰·御堀端通·町屋跡(考察編)、溜池遺跡 -第 I 分冊-・-第 I 分冊- 柴又河川敷遺跡 II、平成5·6年度葛飾区埋蔵文化財調査年報

伊興遺跡

研究紀要4-平成8年度-、港郷土資料館館報-15-、三田臺町・三田臺裏町・芝伊皿子 臺町町屋跡遺跡発掘調査報告書、資料館だより第33号・第34号、汐留遺跡-遺物に 記された文字で見る汐留の近世・近代-

府中病院道路拡張に伴う試掘調査報告書Ⅰ、武蔵台遺跡Ⅱ-資料編6・附編-真人原遺跡Ⅱ、人類誌情報1997

古代103号

横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書、埋蔵 文化財発掘調査概報集V、問答ヶ原遺跡

稲荷前B遺跡他、梶谷原·高林寺遺跡他、御領宮遺跡、厚木道遺跡-第4地点-、平塚市文化財調査報告書第32集

藤沢市文化財調査報告書第32集

諏訪町C遺跡

埋蔵文化財調査概要 -平成8年度-、埋蔵文化財年報(8)-平成8年度-

富山県埋蔵文化財センター 下村教育委員会 舟橋村教育委員会

【石川県 17】

金沢市教育委員会

珠洲市教育委員会 金沢大学資料館

【山梨県 19】

山梨県埋蔵文化財センター

韮崎市教育委員会 玉穂町教育委員会 山梨県立考古博物館

【長野県 20】

長野市埋蔵文化財センター

辰野町教育委員会 長野県立歴史館

【岐阜県 21】

(財)岐阜県文化財保護センター

各務原市埋蔵文化財調査センター

(財) 岐阜市教育文化振興事業団 岐阜市教育委員会 美濃市教育委員会

【静岡県 22】

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

磐田市埋蔵文化財センター

静岡市立登呂博物館

【愛知県 23】

(財)愛知県埋蔵文化財センター

縄文のなりわい -道具から見た暮らし-、埋文とやま第56号~第59号 下村加茂遺跡発掘調査報告書

塚越 I 遺跡第3次発掘調査報告書

安江町遺跡、金沢市松寺遺跡(第2次)、金沢市本町一丁目遺跡Ⅱ、戸水遺跡群、平成8年度金沢市埋蔵文化財調査年報

珠洲市大谷則貞遺跡

金沢大学資料館だよりNo.9~No.11

榎田遺跡、外ガイド遺跡発掘調査報告書、九鬼Ⅱ遺跡、向河原遺跡、甲ッ原遺跡 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、十五所遺跡Ⅲ、上の平遺跡第6次調査・東山北遺跡第4次調査・銚子塚古 墳南東部試掘、水口遺跡、清里バイパス第1・2遺跡、村前東A遺跡概報4、大師東丹 保遺跡 I 区、大塚遺跡、地耕免遺跡、中溝遺跡・揚久保遺跡、中谷遺跡、唐松遺跡、東河原遺跡、梅平本田遺跡、平野遺跡発掘調査報告書、研究紀要13、年報13-平成8年度-

八ヶ岳考古 -平成8年度年報-町内遺跡詳細分布調査報告書 山梨県立考古博物館だよりNo.40・No.41

三輪遺跡(5)・上中島遺跡、松ノ木田遺跡 II、水内坐一元神社遺跡 II、長野市埋蔵 文化財センター所報No.7・No.8、二ツ宮遺跡(2)・吉田町東遺跡、柏尾南遺跡、布施 塚1号古墳・2号古墳

北湯舟A遺跡、北湯舟A遺跡Ⅱ

長野県立歴史館研究紀要第3号、長野県立歴史館たよりvol.10~vol.14

カクシクレ遺跡、山手宮前遺跡、小関御祭田遺跡、飛瀬・底津遺跡、北小木古窯跡群・大沢13号古窯跡、堀田城之内遺跡、与島古墳群、きずな第19号~第21号かかみがはらの埋文第5号、村雨町遺跡A地区発掘調査報告書、坊の塚古墳周濠範囲確認調査報告書

堀田・城之内Ⅱ

平成8年度岐阜市埋蔵文化財調査報告書

改田遺跡、段遺跡、南山遺跡

「静岡の原像をさぐる」発掘調査報告会、加茂ノ洞B遺跡、角江遺跡Ⅱ 遺構編、角江遺跡Ⅱ 遺物編1(土器・土製品)、角江遺跡Ⅱ 遺物編2(木製品)、角江遺跡Ⅱ 遺物編3(石器・金属製品他)、丸山古窯跡、曲金北遺跡(遺物・考察編)、研究紀要第5号、研究所報No.65~No.70、焼場遺跡A地点、瀬名遺跡V(遺物編Ⅱ)、静岡の原像をさぐる、静岡県埋蔵文化財調査研究所年報XⅢ、川合遺跡17区、川合遺跡 遺物編1(土器・土製品図版編)、川合遺跡 遺物編1(土器・土製品本文編)、川合遺跡 遺物編3(木製品図版編)、川合遺跡 遺物編3(木製品本文編)、大見城跡、池ヶ谷遺跡Ⅳ、中峯遺跡、東原ノ坪遺跡、道下遺跡、八田原遺跡、埋蔵文化財巡回展

御殿·二之宮遺跡-第28·33·34次発掘調查報告書-、向笠下原遺跡発掘調查報告書、国分寺·国分台遺跡発掘調查報告書-平成8年度-、中原A古墳群発掘調查報告書、 包坂上2遺跡発掘調查報告書

静岡市立登呂博物館館報7-平成8年度-、祖父母から孫に伝えたい焼畑の暮らし、 登呂の弥生人5-体験して学ぶ古代農村の暮らし-

愛知県埋蔵文化財情報12、清洲城下町遺跡Ⅶ、大縄遺跡、大毛池田遺跡、西上免遺

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

南山大学人類学博物館 名古屋市見晴台考古資料館

愛知県陶磁資料館

豊田市郷土資料館 名古屋大学考古学研究室

【三重県 24】

三重県埋蔵文化財センター

津市埋蔵文化財センター

鈴鹿市教育委員会 松阪市教育委員会 上野市教育委員会

嬉野町教育委員会 青山町教育委員会

【滋賀県 25】

滋賀県埋蔵文化財センター 守山市立埋蔵文化財センター

(財)滋賀県文化財保護協会 滋賀県教育委員会 長浜市教育委員会

滋賀県立安土城考古博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 五個荘町歴史博物館 秦荘町歴史文化資料館 滋賀県立大学考古学研究室 坂田郡社会教育研究会 跡、田所遺跡、年報 -平成8年度-、埋蔵文化財愛知No.48~No.51.

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第5輯、瀬戸・美濃系大窯とその周辺、太子A窯跡、八床9・ $\hat{1}$ 0号窯跡、品野西遺跡、平成8年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報、落合橋南遺跡 $I \cdot \Pi$

中沢貝塚の土器

H-22号窯発掘調査概要報告、伊勢山中学校遺跡、見晴台教室'96、清水寺遺跡第5次発掘調査報告書、曽池遺跡発掘調査概要報告書、竪三蔵通遺跡 -第13次調査の概要-、平成7年度尾張元興寺跡発掘調査報告書、埋蔵文化財発掘調査報告書24~26、名古屋市見晴台考古資料館年報14、名古屋城三の丸遺跡第8・9次発掘調査報告書愛知県陶磁資料館研究紀要13・14、経塚出土陶磁展 -関東・北陸地方に埋納されたやきもの-、経塚出土陶磁展 -中部地方に埋納されたやきもの-、松岡美術館名品展展 -東洋陶磁の精華-

梅坪遺跡IV、豊田市郷土資料館だよりNo.20~No.23 考古資料ソフテックス写真集第12集、名古屋大学文学部研究論集128

96発掘三重-その祈りと祭りの世界-、みえNo.22~No.24、安濃津、一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報IX、一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報IX、一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報IX、宮地中世墓群発掘調査報告、橋垣内遺跡発掘調査報告、窪田大垣内遺跡(第3次)・管ケ谷古墳群発掘調査報告、研究紀要第6号、高皿遺跡発掘調査概報、三重の埴輪、三重県埋蔵文化財年報8、山ノ花・甘チ・北上遺跡、松月院跡・伝本願寺跡、森ノ上遺跡発掘調査報告、森脇遺跡(第4次)・遊山城跡発掘調査報告、瀬干遺跡・綾垣内遺跡・大蓮寺遺跡・柳辻遺跡・北ノ垣内遺跡、石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第5次)、湯後遺跡発掘調査報告、堀田遺跡第3次発掘調査概報

津市埋蔵文化財センター年報1-平成6年度・平成7年度-、埋文センターニュース第5号・第6号

伊勢国分寺·国府跡4

新田町遺跡・阿形遺跡・皆鍋遺跡

上野市埋蔵文化財年報3、上野城跡発掘調查報告、追越遺跡発掘調查報告、比土遺跡発掘調查報告、蓮花寺跡推定地遺跡発掘調查報告

片部遺跡への招待、墨書文字発見と四世紀の日本、野田遺跡発掘調査報告書 七ヶ城遺跡・七ヶ城古墳群・楳ヶ森遺跡調査報告書、深谷遺跡発掘調査報告書、沢 代遺跡調査報告書

近江の近世・近代の焼物、滋賀埋文ニュースNo.204号~No.216号

下長遺跡発掘調查報告書Ⅲ、経田遺跡発掘調查報告書、守山市文化財調查報告書 第56冊

滋賀文化財だよりNo.225~No.240、滋賀文化財教室シリーズ[163]~[172] 淡海の城

永久寺遺跡、下坂氏館跡・大戌亥遺跡・下坂中中世墓群、経田寺遺跡発掘調査報告書、神戸遺跡発掘調査報告書、川崎遺跡3、川崎遺跡Ⅱ、大塚遺跡Ⅱ、大戌亥遺跡3、長浜市埋蔵文化財調査ニュース第57号~第63号、長浜町遺跡、墓立遺跡おおてみち第19号~第21号

うみんど第2号~第5号、私とあなたの琵琶湖アルバム

湖東平野の開発 -ついきのうまでの田園風景の歴史-

金剛輪寺梵鐘と河内鋳物師

人間文化第2号・第3号

佐加太第4号~第7号

【京都府 26】

(財)京都府埋蔵文化財 調査研究センター

(財)京都市埋蔵文化財研究所 京都市埋蔵文化財調査センター

加悦町教育委員会

向日市文化資料館 花園大学考古学研究室 京都大学総合博物館 京都橘女子大学 (株)京都科学

【大阪府 27】

(財)大阪文化財センター (財)大阪市文化財協会 (財)東大阪市文化財協会

(財)八尾市文化財調査研究会

(財)大阪府埋蔵文化財協会 (財)枚方市文化財研究調査会 高槻市立埋蔵文化財調査センター

堺市立埋蔵文化財センター

(財)大阪府文化財調査研究センター 豊中市教育委員会

枚方市教育委員会 松原市教育委員会 富田林市教育委員会

貝塚市教育委員会

泉佐野市教育委員会

15年のあゆみ1981~1996、京都府埋蔵文化財情報第63号~66号

長岡京左京出土木簡1、平成7年度京都市埋蔵文化財調査概要

京都市內遺跡試掘調查概報-平成8年度-、京都市內遺跡発掘調查概報-平成8年度-、京都市內遺跡立会調查概報-平成8年度-

加悦町遺跡発掘調査概報 -1995年度-、日本海三大古墳がなぜ丹後につくられたのか、白米山古墳 I、

桂川用水と西岡の村々、向日市文化資料館報第12号

黄金塚2号墳の研究

王者の武装 -5世紀の金工技術-

Tachibana Being第10号·第11号

ミュージアムワークスVol.1・Vol.2

新金岡更池遺跡

石器づくりとサヌカイト、太閤と金箔押瓦、発掘された加美遺跡

(財)東大阪市文化財協会年報1983年度、瓜生堂上層遺跡・皿池遺跡発掘調査報告、鬼虎川の金属器関係遺物、鬼虎川遺跡、鬼虎川遺跡の弥生貝塚、鬼虎川遺跡第33次発掘調査報告、鬼虎川遺跡第35-1次発掘調査報告、鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地震層序、鬼塚遺跡第8次発掘調査報告書、久宝寺遺跡発掘調査報告、宮ノ下遺跡第2次発掘調査報告書、宮ノ下遺跡東部における歴史時代の層序、郷土史のたのしみ、高井田遺跡第2・3次調査報告、芝ヶ丘遺跡発掘調査概報、若江遺跡発掘調査報告書I遺構編・遺物編、若江北遺跡、植附遺跡第3次発掘調査概報、神並遺跡XIV、神並遺跡西端部の水路跡と埋積谷、水走遺跡第3次発掘調査概報、神並遺跡第21次発掘調査報告、西ノ辻遺跡第33次発掘調査報告、東大阪市遺跡保護調査会年報1979年度・1980年度、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告・1994年度・・1995年度・1980年度、東大阪市文化財協会ニュースNo.4、東大阪市文化財協会概報集・1996年度(1)・、東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要・1995年度調査(1)・・・1995年度調査(2)・、奈良時代の東大阪、縄手遺跡1、北島遺跡の耕作地跡と古環境

萱振遺跡、久宝寺遺跡、財団法人八尾市文化財調査研究会報告53·54·57·58、中田遺跡、平成8年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告

三軒屋遺跡 II、志紀遺跡、東奈良遺跡、日根荘総合調査報告書、仏並遺跡 II ひらかた文化財だより第31号~第34号、研究紀要第4集、枚方市文化財年報18 安満宮山古墳、継体天皇と今城塚古墳、高槻市文化財年報-平成7年度-、嶋上遺跡群21

堺市文化財調査概要報告第59冊~第67冊、堺市文化財調査報告第29集・第32集、堺 埋蔵文化財だより第10号、平成8年度国庫補助事業発掘調査報告書

発掘速報展 大阪'98

蛍池北遺跡(宮の前遺跡)、文化財ニュース豊中No.21~No.23、豊中市埋蔵文化財年報Vol.4、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 -平成7(1995)年度・・平成8(1996)年度・、

枚方市文化財分布図'97改訂版、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 -1996-松原市文化財分布図

喜志西遺跡、富田林の足跡化石、富田林市内遺跡群発掘調査報告書 -平成7年度--平成8年度-

加治·神前·畠中遺跡発掘調査概要、貝塚市遺跡群発掘調査概要19、沢新開遺跡発掘調査概要

茅渟の道第5号、若宮遺跡、上町遺跡、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第23号〜 第31号、中ノ池遺跡 吹田市教育委員会

茨木市教育委員会 大阪府立弥生文化博物館

大阪府立近つ飛鳥博物館

大阪市立博物館 吹田市立博物館

堺市博物館

八尾市立歴史民俗資料館

名神高速道路内遺跡調査会 大阪大学考古学研究室

【兵庫県 28】

兵庫県教育庁埋蔵文化財調査事務所 神戸市教育委員会

播磨町郷土資料館 加古川流域滝野歴史民俗資料館

【奈良県 29】

奈良国立文化財研究所 奈良市埋蔵文化財調査センター

桜井市立埋蔵文化財センター 田原本町教育委員会

榛原町教育委員会 奈良大学考古学研究室

【和歌山県 30】

(財)和歌山市文化体育振興事業団

和歌山県立紀伊風土記の丘資料館

吹田市五反島遺跡発掘調査報告書-写真図版編-、平成8年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報-蔵人遺跡・吹田城跡推定地・垂水遺跡・高浜遺跡・高畑遺跡-、平成8年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報-蔵人遺跡・垂水遺跡・片山芝田遺跡-

平成8年度発掘調查概報

青銅の弥生都市 -吉野ヶ里をめぐる有明のクニグニ、中国古代文明の輝き -玉と青銅と土の芸術、卑弥呼誕生 -邪馬台国は畿内にあった?、弥生俱楽部Vol.12・Vol.13、弥生文化博物館要覧 -平成8年度-

こふんなぜなにブック、まつるかたち-古墳・飛鳥の人と神・、「あつれき」と「交流」-古代律令国家とみちのくの文化・、古墳の科学捜査-行者塚古墳発掘展・、大阪府立近つ飛鳥博物館館報2・館報3、博物館だより-アスカディア・古墳の森Vol.6・Vol.7

大阪市立博物館報 No.36

あかり -祭りとくらし-、稲作の1年、吹田市文化財ニュースNo.18、達磨窯 -瓦匠の わざ400年-、博物館だよりNo.8・No.9

堺市博物館報第16号・第17号、相撲の歴史

会館10周年記念誌、館蔵民具 -衣食住の用具-、研究紀要第8号、古文書・絵図にみる 近世の常光寺

越谷遺跡他発掘調査報告書

井ノ内稲荷塚古墳Ⅱ

ひょうごの遺跡第25号~第28号、平成8年度年報

魚崎中町遺跡(第3次調査)、城ヶ谷遺跡展、福原京とその時代、平成5年度 神戸市 埋蔵文化財年報、平成6年度 神戸市埋蔵文化財年報

かきかえられたひょうごの歴史、平成7年度姫路市埋蔵文化財調査略報

おっちゃんおばちゃんの考古学、屋敷町遺跡、三田文化財情報平成8年度合冊号加西市埋蔵文化財遺跡分布図及び地名表

東有年·沖田遺跡発掘調查報告書

南山古墳群·南山高屋遺跡

道ノ下遺跡(第7次)

遺跡分布図及び埋蔵文化財の手引き、河高・上ノ池遺跡

発掘されたかみごおり

安坂・城の堀遺跡、坂本・観音谷遺跡、段ノ城遺跡、糀屋・土井の後遺跡 I

研究紀要第13号、神戸市立博物館年報No.12

兵庫歴博ニュースNo.58・No.60

館報Vol.8、館報Vol.9

加古川流域の埋蔵文化財

信仰関連遺跡調査課程

奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 -1996-、奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 -平成8年度-、平城京東市跡推定地の調査XV

大和の高殿 -渦巻飾から飛雲飾へ-、纒向の時代 -最近の発掘調査から-

田原本町埋蔵文化財調査年報5、唐古·鍵遺跡vol.1-概説編-、唐古·鍵遺跡第60次発掘調査概報

榛原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書 -1993年度-

文化財学報 第十五集

太田·黒田遺跡第33·34次発掘調查概報、発掘物語'95·'97、府中IV遺跡第2次発掘調查概報、和歌山市埋蔵文化財発掘調查年報3·4

紀伊風土記の丘年報第23号、石棚と石梁-岩瀬千塚の横穴式石室をさぐる-

【鳥取県 31】

(財)鳥取県教育文化財団

(財)鳥取市教育福祉振興会 (財)米子市教育文化事業団

鳥取市教育委員会 倉吉市教育委員会

米子市教育委員会

北条町教育委員会

東郷町教育委員会

【島根県 32】

島根県埋蔵文化財調査センター

出雲市教育委員会 川本町教育委員会 玉湯町教育委員会 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館 島根大学埋蔵文化財調査研究センター

【岡山県 33】

岡山県古代吉備文化財センター

津山弥生の里文化財センター 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会

笠岡市教育委員会 総社市教育委員会 長船町教育委員会 久世町教育委員会 湯原町教育委員会

倉敷市立自然史博物館

岡山県立美術館

坂長宮田ノ上遺跡・坂中第5遺跡・坂長佛谷遺跡・小町越城野原第1・第2遺跡、小町石橋ノ上遺跡・朝金第2遺跡・田住桶川遺跡・田住第8遺跡、長瀬高浜遺跡VII、鳥取埋文ニュースNo.46・47・No.48、鶴田墓ノ上遺跡・鶴田大道端遺跡・鶴田中峯山遺跡、天萬土井前遺跡

岩吉遺跡IV、西大路土居遺跡II、平成8年度桂見遺跡群発掘調査概要報告書 陰田第6遺跡・陰田宮の谷遺跡3区・4区、宗像前田遺跡、石州府第2遺跡発掘調査報 告書、石州府第2遺跡発掘調査報告書II、米子城跡9遺跡

史跡鳥取城跡附太閤ヶ平天球丸保存整備事業報告書

円谷城跡発掘調查報告書、横谷遺跡群発掘調查報告書、下西野遺跡発掘調查報告書、下張坪遺跡発掘調查報告書、夏谷遺跡発掘調查報告書、倉吉市内遺跡分布調查報告書区、不入岡遺跡群発掘調查報告書、両長谷遺跡発掘調查報告書

陰田第6遺跡(久幸地区)、上福万妻神遺跡、諏訪遺跡群発掘調査概報 II、諏訪遺跡群発掘調査報告書 $I \sim IV$ 、長砂第 $1 \cdot 2$ 遺跡、尾高城址、米子市内遺跡発掘調査報告書(遺跡分布調査)1990 \sim 1997

曲遺跡群発掘調查報告書2、町内遺跡発掘調查報告書第6集、北尾古墳群発掘調查報告書第1集

宮内長谷遺跡発掘調査報告書、東郷町内遺跡発掘調査報告書

かんどの流れ第3号、よみがえるあさくみがわのながれ、塩津山古墳群、加茂岩倉遺跡、嘉久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡、岸尾遺跡・島田遺跡、岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡(F区)、渋山地遺跡・原ノ前遺跡、松本古墳群・大角山古墳群・すべりざこ古墳群、檀原遺跡・谷川遺跡・殿淵山毛宅前鈩跡、島根県埋蔵文化財調査センターニュース16号~19号、島田池遺跡・鷭貫遺跡、徳見津遺跡・目廻遺跡・陽徳寺遺跡、斐伊川放水路発掘物語、布志名大谷 I 遺跡・布志名大谷 I 遺跡・布志名才の神遺跡、福富 I 遺跡・屋形1号墳、本庄川流域条理遺跡、埋蔵文化財調査センター年報 V -平成8年度・、柳 II 遺跡・小久白墳墓群・神庭谷遺跡

出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集、天神遺跡第7次発掘調査報告書 丸山城跡

有ノ木遺跡発掘調査報告書

八雲立つ風土記の丘No.143~No.146

島根大学構内遺跡第1次調査(橋縄手地区1)

下笠加遺跡、窪木遺跡1、寺山古墳群·大日幡山城出丸跡、所報吉備第22号·第23号、 小中遺跡·白逧古墳群·小中古墳群·湯ヶ逧古墳、前山遺跡・鎌戸原遺跡、中国横断 自動車道建設に伴う発掘調査4、津寺遺跡4、百間川兼基遺跡3·百間川今谷遺跡3· 百間川沢田遺跡4

永見屋敷跡、西吉田北遺跡、津山弥生の里第4号、日上天王山古墳、有本古墳群 岡山県埋蔵文化財報告27

宇喜多直家城征り跡の探訪マップ、岡山市の近世社寺建築、岡山市埋蔵文化財調査の概要 -1995年度-、吉野口遺跡

関戸廃寺

総社市埋蔵文化財調査年報7(平成8年度)

服部廃寺

五反廃寺

湯原町の文化財

宇野確雄植物コレクション(6)、自然史博物館だよりNo.26、倉敷市立自然史博物館研究報告第12号、由加山の自然

美術館ニュースNo.37~No.39

岡山県立吉備路郷土館 岡山大学埋蔵文化財 調査研究センター

岡山理科大学自然科学研究所 岡山理科大学

倉敷市史研究会

岡山県遺跡保護調査団 高梁川の水と緑を守る会 倉敷の自然をまもる会 岡山県倉敷地方振興局 早島町史編集委員会 (財)倉敷市文化振興財団

【広島県 34】

(財)広島県埋蔵文化財調査センター

(財)広島市歴史科学教育事業団

(財)東広島市教育文化振興事業団

広島県教育委員会

府中市教育委員会

福山市教育委員会 尾道市教育委員会 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館

新市町立歴史民俗資料館 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 広島大学考古学研究室 広島大学統合移転地 埋蔵文化財調査委員会

【山口県 35】

山口県埋蔵文化財センター 下関市教育委員会 下関市立考古博物館

【徳島県 36】

(財)徳島県埋蔵文化財センター

吉備路郷土館だよりNo.20

岡山大学構内遺跡調査研究年報14、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第 18号、今、よみがえる古代、津島岡大遺跡9

自然科学研究所研究報告第22号

岡山理科大学紀要第32号A 自然科学、岡山理科大学紀要第32号B 人文·社会科学

新修倉敷市史第10巻「史料 近世(下)」、新修倉敷市史第11巻「史料 近代(上)」、倉敷の歴史 -倉敷市史紀要- 第7号

調査団ニュース第13号

高梁川流域の自然第16号・第17号

倉敷の自然第64号・第65号

倉敷地方の文化財

早島の歴史1 通史編(上)

倉敷のやきもの展 -古代から現代まで-

ひろしまの遺跡第68号〜第72号、梶平塚第2号古墳発掘調査報告書、金口古墳群、研究輯録VII、県営ほ場整備事業(川西東部・南部地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書、国営広島北部土地改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書、三原城跡、出羽遺跡、上千堂遺跡、千代田流通団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(1)、打堀山遺跡群A・B地点、田上第1・2号古墳、田龍遺跡、年報12-平成7年度-、年報13-平成8年度-、平家ヶ城跡発掘調査報告書、槙ヶ原製鉄遺跡発掘調査報告書、龍王山2号遺跡

広島城外堀跡城北駅北交差点地点発掘調査報告、寺山遺跡発掘調査報告、番谷遺跡発掘調査報告、美しさの考古学 ~装いから粧いまで~、平成7年度考古学教室記録集、平成8年度考古学教室記録集

阿岐のまほろばvol.5・vol.7、安芸国分寺東方遺跡発掘調査報告書、山崎1号遺跡発掘調査報告書

いぶきNo.16~No.20、吉川元春館跡 -第2次発掘調査概要-、広島県の埋蔵文化財-平成6年度事業の概要-、広島県の埋蔵文化財 -平成7年度事業の概要-

備後国府と鴻臚館・太宰府・西日本の国府、備後国府跡 -推定地にかかる1990年度 調査-、備後国府跡 -推定地にかかる1991年度調査-、府中市内遺跡3、埋もれていた 府中 -備後国府跡発掘調査物語-

吉成寺遺跡、池ノ向製鉄遺跡、尾ノ上遺跡

天満原遺跡Ⅱ、尾道遺跡-市街地発掘調査概要-1995

医師・窪田次郎の自由民権運動、戦国民衆と中国地方

掘り出された中世の安芸・備後 -港町・城館・市・集落-、研究紀要第1集、川に生きる -江の川の漁撈文化 II -、年報第18号、歴風第16号~第21号

備後絣

草戸千軒町遺跡発掘調査報告V

帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XI·XII

広島大学統合移転地埋蔵文化財調査の歩み、広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XⅢ

植畠遺跡、東禅寺・黒山遺跡Ⅱ、陶けん第9号・10号

柳瀬遺跡

あやらぎNo.1、よみがえる下関の歴史 I -吉母浜遺跡-、下関市立考古博物館年報2-平成8年度-、研究紀要第1号

四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告9、庄遺跡 I、中島田遺跡

徳島市教育委員会 徳島県立博物館

【香川県 37】

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

香川県教育委員会

善通寺市教育委員会 寒川町教育委員会

【愛媛県 38】

(財)松山市生涯学習振興財団

大西町教育委員会 重信町歴史民俗資料館 愛媛大学埋蔵文化財調査室

【高知県 39】

佐川町教育委員会 高知県立歴史民俗資料館

【福岡県 40】

福岡市埋蔵文化財センター 小郡市埋蔵文化財調査センター

久留米市埋蔵文化財センター

福岡市教育委員会

Ⅱ、徳島県埋蔵文化財センター年報vol.6、立善寺跡遺跡 三谷遺跡、徳島市埋蔵文化財発掘調査概要7 辰砂生産遺跡の調査

いにしえの讃岐第19号・第20号、丸山窯跡、旧練兵場遺跡、空港跡地遺跡 I、空港跡地遺跡 I、空港跡地遺跡発掘調査概報 -平成8年度-、郡家田代遺跡、県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 -平成8年度-、高松城跡(西の丸町)・西打遺跡、国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成8年度-、国分寺六ツ目古墳、研究紀要 V、年報 -平成7年度・・平成8年度・、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報、小山・南谷遺跡 I、小谷窯跡・塚谷古墳、川津一ノ又遺跡、川津一ノ又遺跡 I、中間西井坪遺跡 I、百相坂遺跡

旧練兵場遺跡Ⅱ、県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報、香川県埋蔵文化財調査年報 -平成6年度-・-平成7年度-、北原3号墳・北原遺跡、埋蔵文化財試掘調査報告IX・X

史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業報告書 森広遺跡

釜ノ口遺跡Ⅱ、桑原地区の遺跡Ⅲ、古照遺跡 -第8・9次調査-、小野川流域の遺跡、 松山市埋蔵文化財調査年報IX-平成8年度-、中村松田遺跡、桧山峠7号墳 藤山歴史資料館展示案内

拝志古窯群東地区報告書

愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ、樽味遺跡Ⅲ

上津都岐遺跡

岡豊風日第24号~第26号、高知県立歴史民俗資料館研究紀要第6号、高知県立歴史民俗資料館年報No.6、四万十川-漁の民俗誌-

福岡市埋蔵文化財センター年報第16号

井上南内原遺跡、苅又地区遺跡群II、苅又地区遺跡群IV、干潟城山遺跡II、三沢寺小路遺跡、小郡中尾遺跡2、小板井京塚遺跡2、西島遺跡5、福童山の上遺跡3、埋蔵文化財調査報告書1、埋蔵文化財調査報告書2

へボノ木遺跡 -第62次調査・・第63次調査・、安国寺遺跡、安武地区遺跡群 X・XI、久留米市文化財要覧、久留米城外郭遺跡第2次調査、魚屋町遺跡 -第1・2次調査・、呉服町遺跡、上津・藤光遺跡群、神道遺跡、西行古墳群、大善寺北部地区遺跡群 V、大善寺北部地区遺跡群 V、大善寺北部地区遺跡群 VI、筑後国府跡、筑後国府跡 -第140次調査・、筑後国府跡 -平成8年度発掘調査概報・、津福寺山遺跡、道蔵遺跡 II、二本木遺跡、日出原南遺跡 -第2次調査・、白口西屋敷遺跡、白崎遺跡 -第2次調査・、不光院遺跡、平成7年度久留米市内遺跡群、平成7年度へボノ木遺跡発掘調査概要、平成8年度久留米市内遺跡群、平成8年度へボノ木遺跡発掘調査概要、両替町遺跡

カルメル修道院内遺跡4、井尻B遺跡5、井相田C第6次、下月限天神森遺跡IV・那珂君休V、蒲田・水ヶ元遺跡、蒲田部木原4次、吉武遺跡群IX、橋本榎田遺跡、金隈小津遺跡、原遺跡9、原遺跡第一次の調査、古田遺跡、鴻臚館跡8、雑餉隈周辺遺跡群、三郎丸古墳群、周船寺遺跡群2、重留村下遺跡・四箇遺跡群、諸岡B遺跡、鋤崎古墳群2、小葎遺跡、清末Ⅲ、西新町遺跡6、席田青木遺跡3、大橋E遺跡4、大原D遺跡群2、大谷遺跡群、谷上古墳、田村遺跡12、藤崎遺跡第2次調査概報、那珂17~19、那珂君休遺跡群VI、南八幡遺跡第一次・三筑遺跡第2次調査、入部VII、博多-第6次調査報告-、博多54・56~60、博多遺跡群第3次調査、麦野C・南八幡、板付周辺遺跡調査報告書(17)・(18)、比恵遺跡群(23)・(24)、桧原遺跡、舞松原古墳、福岡外環状道路関

北九州市教育委員会 大野城市教育委員会

北九州市立考古博物館 九州歴史資料館

【佐賀県 41】

佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会

鎮西町教育委員会 玄海町教育委員会 佐賀県立博物館

【大分県 44】

大分県教育委員会

犬飼町教育委員会 別府大学付属博物館

【宮崎県 45】

高岡町教育委員会

【鹿児島県 46】

鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島大学考古学研究室 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

【個人・その他】

大谷壽文

尾関清子

小野伸

亀田修一

間壁葭子

全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会

全国埋蔵文化財法人連絡協議会

第一学習社

(株)小学館

係埋蔵文化財調査報告 -2-・-3-、福岡市埋蔵文化財年報vol.10、福岡城跡、福岡城跡 - 福岡城中堀の調査-、野多目A遺跡、野方塚原遺跡、有田・小田部第27集~第29集、立花寺B遺跡

小倉城跡Ⅲ、能行遺跡

牛頸石坂窯跡 -E地点-、御陵前ノ椽遺跡、石勺遺跡 I -H地点の調査-、石勺遺跡 I -G地点の調査- -G地点の調査-

弥生の鋳物工房とその世界

九州歴史資料館年報 - 平成8年度-、九歴だよりNo.5・No.6

東福寺遺跡、平原遺跡Ⅰ、平原遺跡Ⅱ

下和泉一本椎遺跡 I、金立遺跡 I、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -1992年度、西千布遺跡·友貞遺跡、東千布遺跡I区、妙常寺北遺跡·妙常寺南遺跡、牟田寄遺跡IV·V

No.27 氏家行広陣跡

玄海町の文化財、玄海町遺跡マップ、池尻海底遺跡、長倉遺跡、木下利房陣跡 佐賀県立博物館・美術館報No.117~No.119

字佐別府道路・日出ジャンクション関係埋蔵文化財調査報告書、横山遺跡・尾畑遺跡、大在古墳・浜遺跡第2地点、飯田二反田遺跡、稙田市遺跡

下野遺跡 上津尾遺跡

天平の宇佐 -宇佐虚空蔵寺と古代仏教-、別府大学付属博物館だよりNo.41

久木野遺跡(1区~4区)、高岡町内遺跡V、高岡麓の構成とその遺構調査報告書、 高岡麓遺跡第8地点、城ヶ峰遺跡

上野原遺跡、神野牧遺跡、北薩·伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(VI)、本御内遺跡Ⅲ

タイの製鉄・製塩に関する民俗考古学的研究

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報11

琴浦の歴史散歩、田の口の歴史と伝承、唐琴の歴史と伝承、歴史の町下津井 よみがえる縄文ファッション

岡山県玉野市出崎採集の旧石器(抜刷)、岡山市犬島採集の旧石器(抜刷)

考古学から見た吉備の渡来人(抜刷)

古代出雲における医薬技術への憶測(抜刷)

公立埋文協会報第16~第20号

全国埋文協会報No.47·No.48

総合日本史図表

古代史の論点4、少年少女日本の歴史

荻野延治氏寄贈の資料

藤原好二

1. はじめに

1998年3月31日までの2年間、当センターの館長を務められた荻野延治氏が中学生の頃に採集された資料をご寄贈いただいたので紹介することとしたい。資料は竜王山遺跡のナイフ形石器2点、石鏃4点、剥片6点、仁伍遺跡の石包丁2点、石核1点、スクレイパー1点、剥片2点、飯蛸壺破片1点、鷲羽山遺跡の石槍1点である。このうち主なものを遺跡ごとに紹介する。

2. 遺物の概要

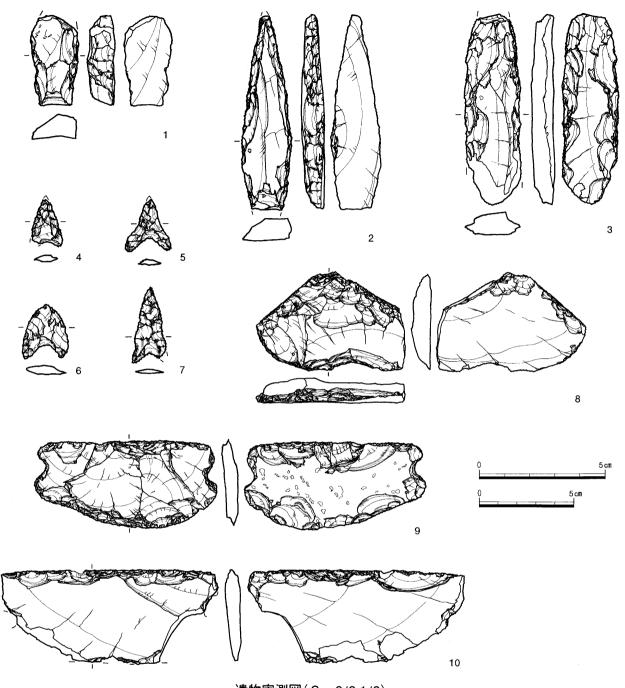
竜王山遺跡 児島味野の竜王山の尾根筋に所在する遺跡で、標高209m、眺望は非常に開けており、 児島西部のほぼ全域を見渡すことができる。遺物は竜王山東側斜面に露出していたものを採集され

たそうである。

1・2はサヌカイト製の ナイフ形石器である。1は 残存長3.59 cm、幅1.97 cm、 厚1.09 cm、重量9.3g であ る。背面はポジティブ面1 面、ネガティブ面2面で構 成され、腹面はポジティ ブ面1面のみである。厚手 で二側縁調整の切出形を 呈するものである。調整 は腹面側から行われてい る。先端部を欠損してい る。2は残存長7.74 cm、幅 2.06 cm、厚0.96 cm、重量 16.9g である。背面はポジ ティブ面1面、ネガティブ 面1面で構成され、腹面は ポジティブ面1面のみで ある。調整は二側縁とも 腹面側から行われてい



1. 竜王山遺跡 2. 鷲羽山遺跡 3. 仁伍遺跡 遺跡位置図(S=1/50,000)



遺物実測図(S=2/3,1/2)

る。特に先端部は念入りに調整が行われている。

 $4\sim5$ はサヌカイト製の石鏃である。いずれも風化が著しく剥離痕の観察は困難である。4は残存長 $1.84~\rm cm$ 、残存幅 $1.24~\rm cm$ 、厚 $0.33~\rm cm$ 、重量 $0.7g~\rm cm$ である。5は残存長 $2.05~\rm cm$ 、幅 $1.84~\rm cm$ 、厚 $0.28~\rm cm$ 、重量 $0.7g~\rm cm$ る。6は長 $2.17~\rm cm$ 、幅 $1.88~\rm cm$ 、厚 $0.39~\rm cm$ 、重量 $1.4g~\rm cm$ る。7は長 $3.00~\rm cm$ 、残存幅 $1.39~\rm cm$ 、厚 $0.26~\rm cm$ 、重量 $0.9g~\rm cm$ る。

鷲羽山遺跡 鷲羽山遺跡はいまさら説明するまでもない著名な遺跡である(1)。尾根筋を中心に旧石器時代から弥生時代にかけての遺物が散布している。紹介するのは3のサヌカイト製石槍1点のみであるが、採集地点は鷲羽山の南側の大浜海岸だそうである。残存長7.54 cm、幅2.24 cm、厚0.92 cm、

重量21.5g で、先端と基部の両方を欠損している。中央部までいたらない幅広いの調整が全周にわたって施されており、断面が扁平な六角形を呈することから弥生時代のものと考えられる。

仁伍遺跡 仁伍遺跡は児島味野の竜王山から北東に延びる支脈の先端に所在する。弥生中期の土器・石器及び貝塚が確認されている⁽²⁾。紹介する遺物は耕作中の畑から採集したそうである。

8はサヌカイト製のスクレイパーである。長5.29 cm、幅7.98 cm、厚1.26 cm、重量58.1g である。やや厚手の剥片に腹面側から角度の急な剥離を行って片刃の刃部としている。

9・10はサヌカイト製の石包丁である。9は長4.68 cm、幅9.59 cm、厚0.71 cm、重量41.0g である。背面は礫面であり、腹面側は数度にわたって適当な厚さにするための剥離が行われている。刃部は弧状を呈し、使用によって稜線がわずかに摩耗している。背部のつぶし加工はそれほど著しいものではない。10は長4.90 cm、残存幅11.04 cm、厚0.82 cm、重量54.3g である。欠損部分が大きいがわずかに両端に抉りの存在した痕跡がうかがえる。背部はつぶされている。

3. おわりに

今回紹介した資料は前館長が中学生の夏休みに宿題としてまとめられたものである。遺物は「昭和二十九年夏休作品 サヌカイト石器」と題された紙箱に収められていた。1点づつ丁寧に台紙に凧糸で固定され、箱の裏に個々の説明が簡潔に付されている。

現在ではこれと同じことを小・中学生に勧めるのは適当ではないが、身近な遺跡にふれる機会ももっと必要ではないだろうか。こうした考えから当センターでは7月から8月にかけて「夏休み自由研究相談」の受付を実施した。対象は歴史を勉強し始める小学校の高学年及び中学生。夏休みの宿題として地域の歴史を調べようとする生徒が実際の遺跡を歩いて学習できるように、遺跡の所在地や遺跡の概要などを紹介したり、研究方法のヒントを与えたりするものである。しかし、PRをまった

く行わなかったためであろうか、利用 は低調であった。

そこで次回は市内の小・中学校に対して積極的にPRをおこなってみたいと考えている。そしてこうした情報提供に対するニーズがどの程度あるのか把握した上で、児童・生徒が身近な歴史を学ぶにはどのような方法が最適なのか再考してみたい。荻野前館長の資料はこのような問題を考えるよい機会を与えてくれた。最後になったが資料を寄贈してくださった荻野前館長に感謝したい。



宿題の箱

- 註(1) 山本慶一「鷲羽山遺跡採集の石器と土器」『倉敷考古館研究集報』第6号 倉敷考古館 1969年
 - (2) 山本慶一「倉敷市仁伍遺跡」『倉敷考古館研究集報』第8号 倉敷考古館 1973年

玉島乙島出土の亀山焼資料

福 本 明

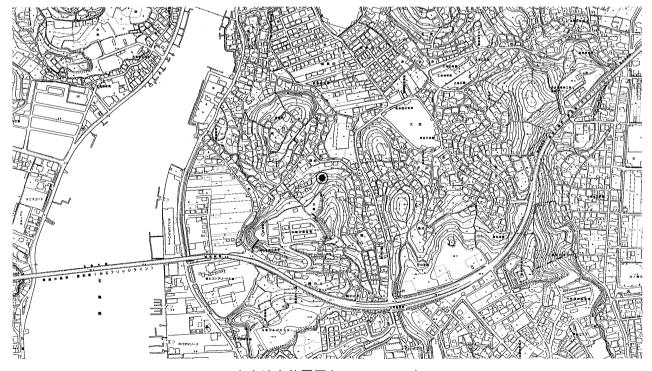
1. はじめに

今回ここに紹介する資料は、倉敷市玉島乙島から出土した亀山焼の甕である。当資料は、今からおよそ10年ほど前に、玉島乙島字城ノ向の猪木秀男氏所有の柿畑から出土したもので、地元の陶芸家香西三樹氏が長年にわたり大切に保存されていたものである。このたび香西氏のご好意により、当資料が倉敷市立玉島歴史民俗海洋資料館に寄贈されたのを機に、ここに紹介するものである。

本稿を草するにあたり、資料の公表をご快諾いただいたき、また出土地において当時の状況等についてご教示いただいた香西三樹氏、ならびに種々のご便宜をはかっていただいた玉島歴史民俗海洋資料館の原田力氏に厚くお礼申し上げる次第である。

2. 出土地と周辺の状況

倉敷市玉島乙島は、高梁川の河口部の西方にあたる地域で、乙島の丘陵をはさんで西方の柏島との間には、かつて千石船の入港で賑わった玉島港が開けている。丘陵の周辺に広がっている平地のほとんどは近世以降の干拓地であり、それ以前はその名が示すとおり、浅海に浮かぶ小さな島のひとつであった。このため乙島周辺では、丘陵の北東端に2基の古墳からなる水溜古墳群や南西部に中世貝塚が知られているほかは、丘陵上で少量のサヌカイト片や弥生土器片等が採集される地点がある程度

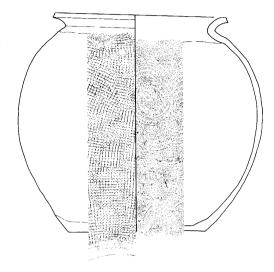


出土地点位置図(S=1/10,000)

で、大きな遺跡の存在は知られていない。

本資料の出土地は、乙島の丘陵の南西寄りにあたり、北西に面した斜面で、現在は柿畑となっている。標高は約15mを測る。本地点から浅い谷をはさんだ向かい側の丘陵には、天台宗の寺院である常照院があり、周辺の小字は城と呼ばれている。地元では源平の水島合戦の伝承が残されている地である。また常照院の南側には、中世の貝塚と思われる貝の散布もみられる。

遺物の出土状況については、香西氏が実際に 掘り出された猪木氏のご家族から聞かれたと



出土甕実測図(S=1/4)

いう話によると、甕は柿畑の斜面での農作業中に発見されたもので、単独で存在しており、甕の上に は平たい石が置かれていたという。

3. 出土遺物

独は、口縁部の4分の3ほどを欠いているものの、体部から底部にかけては完存しており、保存状況の良好な資料である。口縁部の径は推定18.6 cm、器高23.0 cm、底部径14.4 cm、最大径は26.1 cmを測る。口縁部は、強く屈曲してやや短く外反してのび、端部はくぼみ気味に面をもっている。体部は球型を呈しており、最大径はほぼ中位にある。底部は安定した平底をもっている。体部外面には、凹部が3mm角の細かな格子目タタキが全体に施されている。タタキの方向は、上位がやや斜め方向、下半は横方向となっている。体部外面の下端は、横方向のヘラケズリを施している。体部内面はやや細めの同心円タタキが施されたのち、全体にヨコナデにより仕上げられている。底部外面は不整方向のヘラケズリののちナデを加えている。色調は全体に暗黄灰色で、部分的に淡青灰色を呈するところもあり、焼成は良好である。胎土は微砂粒を含むものの比較的精良な粘土を用いている。

4. まとめ

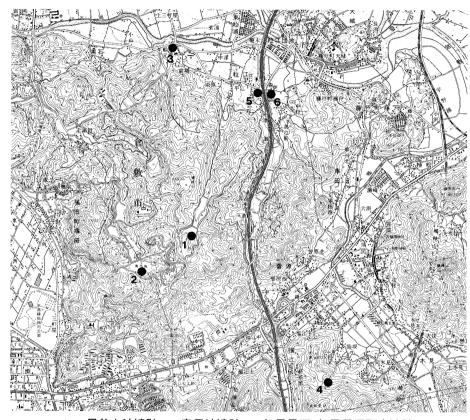
上述のように、当資料はただ1点のみ偶然に発見されたもので、出土状況についても出土から年数もたっていることもあり、正確な状況については把握しえないが、甕の口縁部のみが欠損していることや発見当時上部に平石が置かれていたということなどから、火葬骨蔵器として使用されたものと考えてよかろう。また当資料の年代については、細かな格子目タタキをもつことや、口縁部が比較的短く強く屈曲している点、須恵器に近い硬質の焼成等から鎌倉時代の中に含まれるものと思われる。

平井政雄氏寄贈の資料

藤原好二

1. はじめに

今回紹介する資料は、 倉敷市粒江の平井政雄氏 が長年にわたって収集さ れた資料である。平井氏 は、自宅のすぐそばに所 在する船元貝塚で石鏃を 拾ったことがきっかけと なってこれらの遺物を採 集するようになったそう である。収集された遺物 には船元貝塚をはじめ真 弓池遺跡、熊坂窯跡など これまで紹介されたこと のない遺跡のものも含ま れている。なかでも一尺 谷上池遺跡は、1975年度 刊行の倉敷市文化財分布 図(1)にも記載されていな



1. 一尺谷上池遺跡 2. 真弓池遺跡 3. 船元貝塚・船元貝塚西方遺跡 4. 熊坂窯跡群 5. 磯の森貝塚 6. 舟津原貝塚

遺跡位置図(S=1/50,000)

い新発見の遺跡であり、貴重な遺物が多く含まれている。平井氏のご厚意によりこれらの資料を当センターにご寄贈いただいたので、ここに紹介するものである。

以下遺跡ごとに解説を行いたい。

2. 一尺谷上池遺跡

遺跡の概要 この遺跡は銅鐸の発見地として著名な種松山の南に所在している。種松山の東側を北から深く入り込んだ谷には3つの池が築かれているが、その一番上手の池が一尺谷上池である。標高は185m付近で、東と北はやや開けているが西と南は高い尾根に囲まれており、眺望はあまりよくない。池は地図上で見ると逆Y字形をしており、遺物は池の中央に突出した舌状地形上と東側の谷筋に東岸から突出した舌状地形上の2箇所から採集されている。両地点とも本来は尾根筋であったが、池が築かれた後に水による浸食で遺物が洗い出されたものであろう。前者を第1地点、後者を第2地

点とするが、今回紹介する資料は両地点のものが混在している。

遺物 遺物としては多量の土器と石器、そして少量の貝がある。土器のほとんどは細片であり、また風化も著しく実測できる資料はなかった。しかし高坏の脚部や甕の口縁など破片から弥生時代中期のものが多いようである。縄文時代のものと確定できる土器は確認できない。貝はカキとハイガイであるがまとまった貝塚などは確認していない。しかし石器はか



一尺谷上池遺跡詳細図(S=1/10,000)

なり多量に含まれており、しかも旧石器時代?から弥生時代まで各時期のものが存在している。この うち120点を図化した。53が姫島産の黒曜石製である以外はすべてサヌカイト製である。また、ハリ 質安山岩の存在も認められるが、細石刃・細石器は見あたらない。

風化が著しく確定できないが、旧石器時代のナイフ形石器の可能性のあるものが2点存在し、1点を図化した。1は背面がポジティブ面・ネガティブ面各1面で構成され、腹面はポジティブ面1面のみである。一側縁調整で、調整は背面側から行われている。約半分を欠損している。

2は有茎尖頭器である。背面側の加工は周辺部のみで素材面が広く残っている。その反面、腹面側には丁寧な斜状平行剥離が行われている。

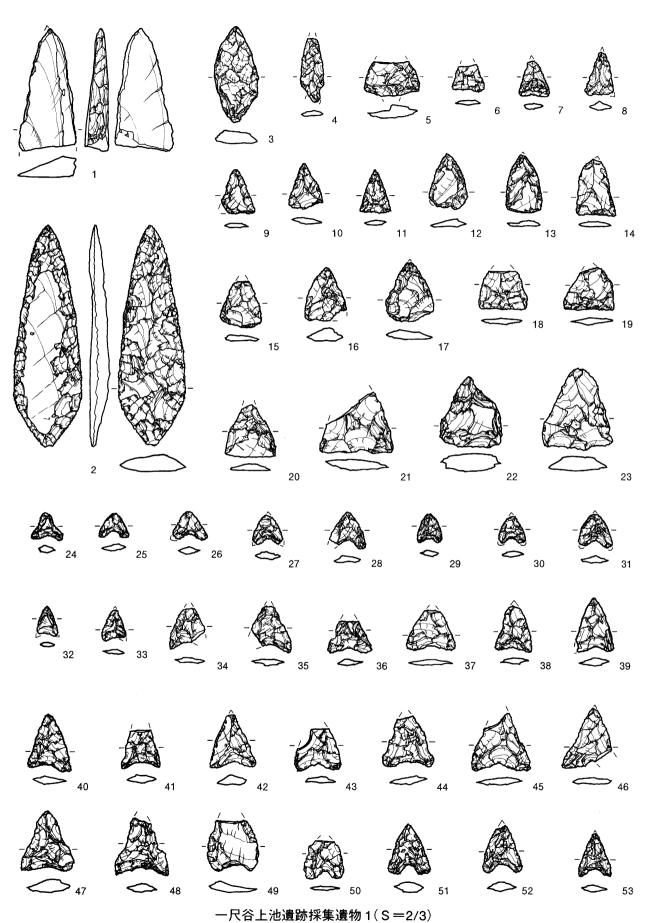
石鏃は177点が採集されているがそのうち107点(3~109)を図示した。縄文から弥生にかけて各時期のものが含まれていると考えられ、特徴的なものを除いては時期を確定するのは困難である。

3は尖基鏃と考えられる。4・5は有茎鏃である。4はいわゆる「アメリカ式」鏃で両側から抉りを入れて基部を作り出しており、縄文前期に特徴的な鏃である。5は先端部と茎部を失っているが弥生中期のものである。

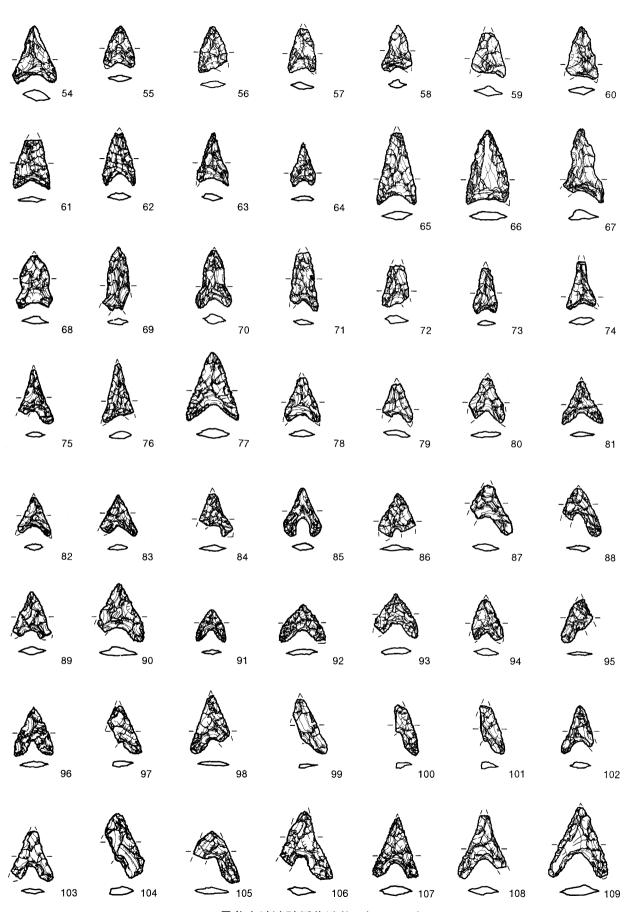
 $6 \sim 23$ は平基鏃である。 $6 \sim 11$ は比較的小型のもので、 $21 \sim 23$ は大型で厚手のものである。

24~109は凹基鏃である。かなり小型のものから大型のものまで存在する。105・106は基辺が外反し、特徴的な脚部形状で縄文早期のものではないだろうか。85も類似の形態のものが鷲羽山遺跡などから出土しており縄文早期の可能性が高い。91・96・97は丁寧な剥離で調整されており、脚部の形状等から縄文前期のものと考えられる。92・93も先端が宝珠の頂部状に突出し、幅の広い特徴的な形をしており縄文前期のものである。71はやや細長い身部に貧弱な脚がつくもので、同形状のものが里木貝塚から出土しており縄文中期と考えられる。69・70はいわゆる「ロケット」鏃と呼ばれるもので縄文後期に見られるものである。77は基辺に鋸歯状を呈する部分がある。この形態はこの地域では後期の特徴といわれる。66は風化があまり進んでおらず、抉りも浅い。また、調整も中心部に及ばないことから弥生時代のものであろう。

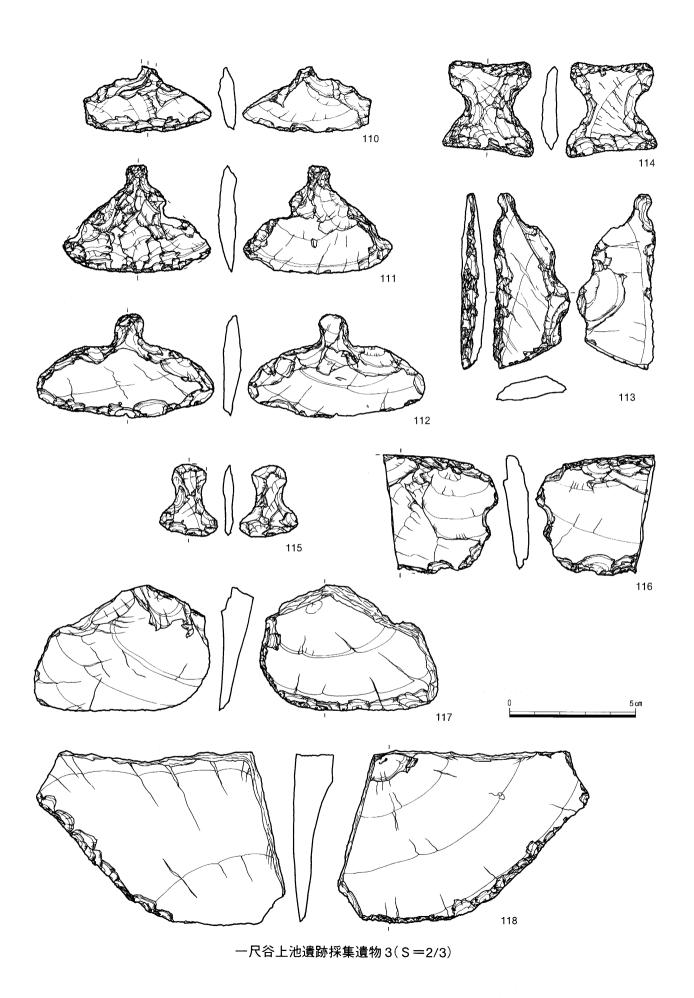
110~113は石匙である。110~112は横型の石匙でいずれも片刃の刃部は弧状を呈している。刃部加工は角度の緩やかな調整を腹面側から行っている。特に111は精美な二等辺三角形をしており、縄文前期の北白川下層式に伴う石匙である。113は縦型で縄文中期のものと考えられる。片刃の刃部は内湾しており、刃部加工は背面側から急な角度で行われている。

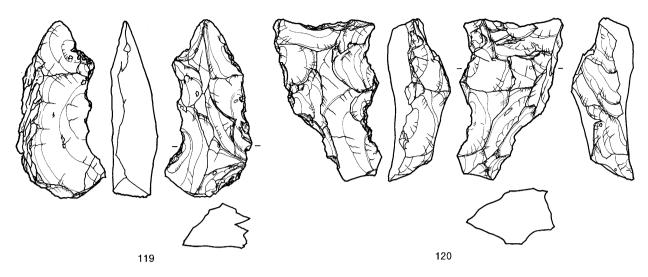


八日工/6度跡7不来度701(3~2/3)



一尺谷上池遺跡採集遺物 2(S=2/3)





一尺谷上池遺跡採集遺物 4(S=2/3)

114・115は異形石器である。糸巻形石器とも呼ばれる。114は上下及び左右の抉りとも丁寧な加工が施されている。これについては縄文中期の備前市長縄手遺跡で同形態のものが出土している⁽²⁾。しかし長縄手遺跡のものは長さ1.7cmと一尺谷上池遺跡のものより格段に小さいため同様の石器と評価してよいのかためらわれる。115は風化が著しいため確定できないが、調整がおおざっぱであり、縄文時代前期に見られるものに類似しており、磯の森貝塚の報文⁽³⁾で「分銅形石斧」と呼ばれているものと同類であろう。

116は弥生時代中期の打製石包丁である。背部は念入りにつぶされている。抉りの部分にはひもを掛けた痕跡と考えられる摩耗が観察される。全体の約半分を欠損しており、刃部も欠けているようで使用痕ははっきりしない。打製石包丁はやはり欠損品であるがもう1点採集されている。

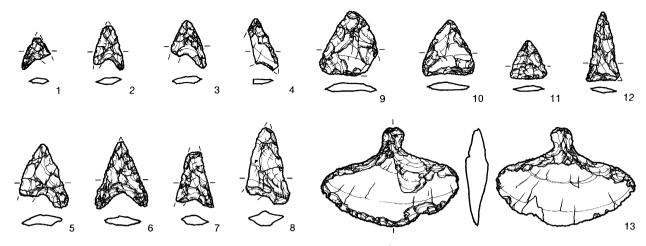
117・118はスクレイパーである。117は片刃で打点の反対側の側縁に背面側から角度の緩やかな調整を行って刃部を作り出している。118は両刃のスクレイパーで、比較的大きく平らな剥片を素材としており、風化もあまり進んでいないので弥生時代のものの可能性が高い。

119・120は石核である。打面と作業面を交互に入れ替え、打面転移を行いながら横長剥片を剥離している。119は原礫面をかなり残している。120は全周にわたって剥離が行われており、部分的に船底型になっている。確定はできないがこの二つの石核は旧石器時代のものの可能性が高い。

3. 真弓池遺跡

遺跡の概要 真弓池遺跡は一尺谷上池遺跡から西に尾根を越えた真弓池の南岸に所在している。西方の倉敷市浦田から入り込んでくる深い谷のやはり一番奥に位置し、標高は155m付近である。現在、畑地として耕作されている扇状地上で遺物が採集される。

遺物 遺物としては土器・石器が多量に採集されているが、土器は細片で風化が著しいものが多い。縄文のはいった破片が1点のみ認められる。その他は底部や口縁部にあたる破片から弥生時代と考えられるものが多い。石器は石鏃と石匙の他、多量の剥片・砕片が認められ全てサヌカイト製である。石鏃12点・石匙1点を図示した。1~12は石鏃である。1~8は凹基鏃、9~12は平基鏃である。1・6が比較的丁寧な調整で形が整えられているが、他のものは調整が大ざっぱである。13は石匙で

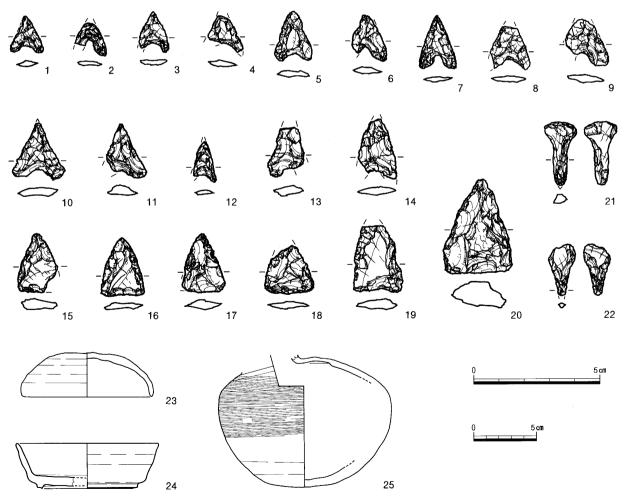


真弓池遺跡採集遺物(S=2/3)

ある。横型のもので、刃部は片刃で弧状を呈している。刃部加工は腹面側から緩やかな角度の調整が 行われている。

4. 船元貝塚·船元貝塚西方遺跡

遺跡の概要 船元貝塚は瀬戸内の縄文中期土器の指標遺跡として著名(4)である。以前の調査で貝塚からは少量の前期土器と多くの中期の土器、さらに人骨・石器が出土している。また、この付近は



船元貝塚·船元貝塚西方遺跡採集遺物(S=2/3·1/3)

その後も居住に適した土地だったらしく、古墳時代から近世までたくさんの遺構が重複して存在しており貝塚を除く部分を船元貝塚西方遺跡と呼んで区別している。この中には倉敷考古館によって調査された近世墓群である城ヶ端遺跡(5)も含まれている。

遺物 平井氏の自宅のそばだけあって採集された遺物も多く種類も多岐にわたっている。縄文時代の遺物としては石鏃・石錐等の石器、ハイガイ、カキ等の貝があるが、なぜか縄文土器とわかるものは見あたらない。しかし石器の中には炭酸カルシウムの付着しているものもあり、貝塚の中から採集されたとわかるものも存在した。石器のほとんどはサヌカイト製であるが、1点のみ黒曜石の剥片が認められる。土器として古墳時代後期の製塩土器・須恵器が多く、古代の須恵器、亀山焼の破片なども含まれている。紹介するのは石鏃20点、石錐2点、須恵器3点である。

1~20は石鏃である。1~14が凹基鏃、15~20が平基鏃である。16を除く鏃は表面に貝が付着しており、貝層から採集されたことがうかがえ、縄文前期か中期のものの可能性が高い。2·7は加工が丁寧で脚部形状が特徴的であるため縄文前期のものであろう。対してそのほかのものは加工がおおざっぱなものが多く縄文中期に属すると考えられる。

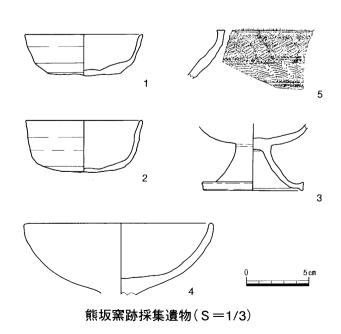
21・22は石錐である。21は背面側から角度の急な剥離を行って形を整えている。刃部の片側は先端からの樋状剥離を利用し、もう一方は交互剥離で仕上げている。22は刃部の両側縁とも交互剥離で製作している。両方とも先端を欠損しており、使用痕は明確ではない。

23~25は須恵器である。23は蓋坏の蓋である。直径10cm程度の小型化したもので、外面調整は天井部がヘラケズリの後ナデ、その他はナデで、内面調整はナデである。24は古代の坏である。直径11cm程度、底部に高さ約4mm程度の高台をもつ。高台は張り付けて作られている。調整は内面・外面ともにナデで仕上げている。25は古墳時代の平瓶である。直径約12cm程度、底部はヘラケズリの後ナデで仕上げ、上半部はカキ目調整を施している。口縁部は欠損している。23は陶邑編年でII型式6段階(7世紀初頭)で、24はIV型式後半(7世紀後半)のものと考えられる(6)。

5. 熊坂窯跡群

遺跡の概要 熊坂窯跡群は児島の郷内盆地に所在する児島窯跡群の1群⁽⁷⁾である。林の甲 亀池の谷の奥、調査が行われたことがないため 実態には不明な点が多いが、10基近い窯跡が 存在するようである。

遺物 採集されている資料は9点だが、今回は坏身2点、高坏2点、不明須恵器1点を図示した。1・2は坏身である。直径は10cmに満たないもので、高さは1がやや浅く3.3cm、2が4.15cmである。3・4は高坏で、3は口縁部を欠いているが小型のものである。4は脚部を欠いているが、径15cmの大型のものである。口縁部はま



るくおさめている。5は器種は不明だが外面に櫛状工具で波状文様を描いている。また口縁部はきちんと面取りを行っている。

紹介したものがすべて同一の窯跡で採集されたのかどうか不明ではあるが、遺物の時期は全体として陶邑編年でⅢ型式2段階(7世紀初頭)の範疇におさまるものと考えられる。

6. まとめにかえて

紹介した遺跡の数が多く、しかも各時代にわたるため、筆者の力量ではすべてをまとめることはできない。そこで、今回は遺物の量が多くしかも新発見の遺跡である一尺谷上池遺跡の石器について、気の付いたことを述べてまとめにかえたい。

一尺谷上池遺跡でまず目についたのは整った三角形をした石匙(111)の存在である。これは縄文前期の北白川下層式に特有のものである。また、一尺谷を北に下った当時の海辺には北白川下層式期の

磯の森貝塚が位置しており、両遺跡は直 線距離でわずか2kmしか離れていない。

そこで両者の石器を、やはり北白川下 層式期の福井県鳥浜貝塚(8)の石器とあわ せて比較してみたところ共通するものが 極めて多いことがわかる。まず石匙であ るが整った三角形の石匙が3遺跡ともみ られる。また磯の森貝塚⁽⁹⁾と鳥浜貝塚に は横にした楕円を上部からつぶしたよう な石匙が出土している。石鏃の形態も共 通性があげられる。92・93のような先端 が宝珠の頂部状に突出し、幅の広い特徴 的な形をしたものは鳥浜貝塚に、そして 96・97のように特徴的な脚部を持つ凹基 鏃は3遺跡とも存在する。さらに4のよう ないわゆる「アメリカ式」鏃の存在と一 定量の粗製平基鏃の存在があげられる。 もちろん一尺谷上池遺跡採集の平基鏃に ついては時代を特定できないが。また、 115のような異形石器も3遺跡に共通し て認められる。

これまで「整った三角形をした石匙」は東海・近畿・北陸地方において北白川下層式期に伴うとされていた⁽¹⁰⁾が、以上のことから「整った三角形をした石匙」



鳥浜貝塚出土石器(註8文献より)

を含む北白川下層式期の石器構成が瀬戸内中部にもひろまってきていることが確認できる。また一 尺谷上池遺跡と磯の森貝塚には極めて密接な関係があったことが想定される。

次に一尺谷上池遺跡と磯の森貝塚の立地について見てみよう。一尺谷上池遺跡は谷筋の一番奥に位置し、標高は185mとかなり高いが周囲を尾根に囲まれ眺望はほとんどきかない。利点といえば湧水地点に近いということがあげられる。かたや磯の森貝塚は厳密に言えば一尺谷の一つ東側の谷ではあるが、谷川が海に注ぎ込む海辺に立地している。北面する地形ではあるが比較的広い緩斜面が続いており海岸段丘状を呈している。カキをはじめとする多量の貝類に加えて、マダイ、クロダイ、スズキ等の魚骨が出土している。

両遺跡ともしっかりした発掘調査が行われたわけではなく、その関係を想定するのは難しいのだが、一つの仮説としては次のように考えられる。まず、居住条件などから磯の森貝塚の南に広がる緩斜面に一定の集落があり、貝塚は漁労を中心とした生業活動の結果形成されたと考えられる。また、貝塚からは鹿やイノシシの骨なども確認されており、種松山の山の幸も利用していたことがうかがえる。つまり一尺谷上池遺跡は、磯の森貝塚後背地に住む人々が種松山の山の幸を利用する際のベースキャンプ的な遺跡と考えるのが妥当なのではないだろうか。一尺谷上池遺跡は湧水地点に近いことから飲み水を容易に得ることができるうえ、水を求めて集まってくる動物を狩ることができると考えられる。多量の石器・剥片・砕片の存在は、ここで石鏃等を製作しながら湧水地にやってくる動物を見張っていたからであろう。

また、この関係は縄文中・後期と引き続いて維持されたようである。粒江地区の海浜部では縄文時代前期には磯の森貝塚、中期に船元貝塚、後・晩期には舟津原貝塚と居住の中心が移動しているが、一尺谷上池遺跡からは縄文中・後期と考えられる石鏃等も採集されている。海浜部の貝塚遺跡と一尺谷上池遺跡は中・後期も前期と同様、一体的関係にあったものと考えるのが自然であろう。しかし弥生時代になると粒江地区の海浜部にはこれまで確実な遺跡が確認されておらず、対して種松山の山頂を中心とした高所に遺跡が分布するようになる。弥生時代における一尺谷上池遺跡の位置づけについてはまた別の解釈が必要であろう。

最後になりましたが本資料を快くご寄贈くださった平井政雄氏に感謝いたします。

- 註(1) 倉敷市教育委員会『倉敷市文化財分布図』1975年
 - (2) 岡山県古代吉備文化財センターにて岡本泰典氏のご厚意により実見
 - (3) 池田次郎・鎌木義昌「岡山県磯の森貝塚発掘報告」『吉備考古』第81・82合併号 1951年
 - (4) 清野謙次「備前国児嶋郡粒江村大字粒江船元字原崎貝塚」『日本貝塚の研究』岩波書店 1969年
 - (5) 間壁葭子「倉敷市城ヶ端遺跡」『倉敷考古館研究集報』第18号 倉敷考古館 1984年
 - (6) 中村 浩『研究入門 須恵器』 柏書房 1990年
 - (7) 伊藤 晃「窯業」『岡山県の考古学』1987年
 - (8) 福井県教育委員会『鳥浜貝塚』1979年
 - (9) 中越利夫「岡山県磯の森貝塚出土の遺物について」『帝釈峡遺跡群発掘調査室年報』V 広島大文学部 帝釈峡遺跡群発掘調査室 1982年
 - (10) 鈴木道之助『図録石器入門辞典 縄文』柏書房1991年

1. 採集石器一覧表

採集石器一覧表例言

番号 今回報告を行った番号である。

TPt 有茎尖頭器 AH 石鏃 AH未 石鏃未製品 Dr 石錐

器種 Kn ナイフ形石器 Sc スクレイパー PE 楔形石器 異 異形石器 SR 石包丁 TSc 石匙

RF 加工痕跡のある剥片 PESp 楔形石器削片 UF 使用痕跡のある剥片 ? 不明石器 Cr 石核

石材 An 安山岩 Ob 黒曜石

型式 尖 尖基鏃 有 有茎鏃 平 平基鏃 凹 凹基鏃

整理番号 埋蔵文化財センターにおける保管番号である。

長・幅のうち、()のつくものは最大値を示している。

一尺谷上池遺跡採集石器一覧表

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号		番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
1	Kn	An	(4.86)	2.30	0.80	7.80		62		42	AH	An	(2.06)	1.78	0.50	1.40	凹	102
	Kn?	An	3.76	2.40	0.66	4.30		231		43	AH	An	(1.62)	1.81	0.29	0.80	Ш	134
2	TPt	An	8.75	2.69	0.70	15.90		51		44	АН	An	(1.98)	2.00	0.36	1.00	Ш	99
3	AH	An	3.80	1.70	0.60	3.80	尖	91		45	AH	An	(2.21)	2.26	0.33	1.40	Ш	154
4	АН	An	(2.50)	0.90	0.26	0.60	有	90		46	АН	An	(2.17)	(1.92)	0.29	1.10	Ш	120
5	AH	An	(1.36)	2.17	0.55	1.50	有	160		47	AH	An	2.36	2.09	0.57	1.80	凹	196
6	AH	An	(1.06)	1.27	0.23	0.30	平	202		48	AH	An	(2.28)	2.16	0.39	1.40	Ш	78
7	AH	An	(1.37)	1.16	0.49	0.50	平	76		49	AH	An	(1.98)	2.00	0.44	1.80	凹	98
8	AH	An	(1.69)	(1.14)	0.34	0.50	平	118		50	AH	An	(1.50)	1.68	0.24	0.60	凹	87
9	AH	An	1.70	(1.30)	0.20	0.40	平	106		51	AH	An	1.94	1.67	0.47	1.10	凹	125
10	AH	An	1.79	1.36	0.29	0.50	平	195		52	AH	An	(1.81)	1.56	0.40	0.80	凹	104
11	AH	An	1.68	1.24	0.26	0.20	平	172		53	AH	Ob	(1.65)	1.27	0.30	0.40	ГП	92
12	AH	An	2.16	1.46	0.34	1.00	平	96		54	AH	An	2.24	1.71	0.52	1.30	Ш	161
13	AH	An	2.28	1.40	0.29	0.80	平	67		55	AH	An	1.60	1.22	0.28	0.50	凹	135
14	AH	An	(2.18)	1.52	0.27	0.80	平	68		56	AH	An	1.81	(1.18)	0.30	0.50	凹	129
15	AH	An	(1.83)	1.61	0.26	0.80	平	136	:	57	AH	An	(1.67)	1.09	0.29	0.50	凹	131
16	AH	An	2.13	(1.65)	0.51	1.30	平	200		58	AH	An	(1.80)	(1.90)	0.43	0.50	Ш	201
17	AH	An	2.34	1.86	0.38	1.60	平	159		59	AH	An	(1.75)	(1.34)	0.50	0.70	凹	171
18	AH	An	(1.50)	1.89	0.29	0.90	平	158		60	AH	An	(2.10)	(1.23)	0.36	0.70	Ш	133
19	AH	An	(1.65)	1.95	0.32	1.00	平	132		61	AH	An	(1.89)	1.41	0.22	0.60	ÏП	122
20	AH	An	(2.00)	1.96	0.33	1.20	平一	66		62	AH	An	(2.04)	1.39	0.36	0.70	[H]	85
21	AH	An	(2.38)	2.82	0.50	2.80	平一	64		63	AH	An	2.10	(1.27)	0.31	0.50	凹	191
22	AH	An	2.74	2.46	0.75	5.10	平	65		64	AH	An	1.63	0.96	0.22	0.30	凹	130
23	AH	An	3.10	2.66	0.66	4.70	平	63		65	AH	An	(2.78)	1.54	0.33	1.00	凹	153
24	AH	An	(1.00)	1.20	0.34	0.30	<u>[</u>	74		66	AH	An	2.89	(1.76)	0.46	1.80	凹	95
25	AH	An	(0.98)	(1.18)	0.29	0.20	凹	73		67	AH	An	2.90	(1.65)	0.40	1.00	凹	119
26 27	AH	An	(1.09)	(1.30)	0.28 0.36	0.30	凹	72		68 69	AH	An	(2.02)	(1.43)	0.31	0.70	凹	163
28	AH AH	An	(1.18)	(1.20)	0.36	0.40 0.40	凹凹	71 198		70	AH AH	An	(2.47) (2.24)	(1.05)	0.32 0.39	0.70 0.80	凹凹	114 117
29	AH	An An	1.14	1.00	0.29	0.40		70		71	AH	An An	(2.24)	(1.11)	0.39	0.40	凹	117
30	AH	An	(1.08)	(1.04)	0.24	0.20	凹	69		72	AH	An	(1.65)	(1.11)	0.25	0.50	凹	116
31	AH	An	(1.26)	(1.04)	0.24	0.40	凹	157		73	AH	An	(1.76)	0.93	0.33	0.30	凹	126
32	AH	An	1.20	(0.84)	0.20	0.40	凹	75		74	AH	An	(1.90)	(1.16)	0.21	0.40	凹	179
33	AH	An	1.11	0.94	0.26	0.20	凹	128		75	AH	An	(2.15)	(1.37)	0.27	0.40	凹	165
34	AH	An	(1.50)	(1.43)	0.25	0.40	匝	156		76	AH	An	(2.25)	(1.24)	0.33	0.60	<u>Ш</u>	115
35	AH	An	(1.77)	(1.51)	0.27	0.60	凹	167		77	AH	An	2.70	2.07	0.39	1.30	<u> </u>	190
36	AH	An	(1.23)	1.68	0.26	0.50	凹	155		78	AH	An	(1.73)	(1.40)	0.31	0.50	凹	199
37	AH	An	(1.55)	1.90	0.28	0.70	Ш	97		79	AH	An	(1.51)	(1.18)	0.27	0.40	Ш	108
38	AH	An	(1.75)	1.44	0.24	0.50	凹	127		80	AH	An	(1.77)	(1.39)	0.29	0.60	Ш	107
39	AH	An	2.10	(1.48)	0.34	0.80	凹	162		81	AH	An	(1.63)	1.60	0.20	0.30	凹	88
40	AH	An	2.24	1.72	0.32	1.00	凹	100		82	AH	An	(1.41)	(1.27)	0.27	0.30	凹	112
41	AH	An	(1.49)	1.56	0.34	0.70	凹	194		83	AH	An	1.62	(1.47)	0.28	0.40	凹	164

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
84	AH	An	(1.70)	(1.28)	0.28	0.30	凹	94
85	AH	An	1.89	1.49	0.28	0.40	凹	197
86	AH	An	(1.65)	(1.40)	0.26	05	凹	93
87	AH	An	(1.78)	(1.60)	. 0.32	0.60	凹	192
88	AH	An	(1.96)	(1.61)	0.28	0.40	凹	101
89	AH	An	(1.79)	(1.52)	0.36	0.60	凹	193
90	AH	An	2.28	(1.80)	0.40	1.00	凹	82
91	AH	An	1.29	1.14	0.25	0.20	凹	89
92	AH	An	1.43	(2.74)	0.24	0.50	[凹]	86
93	AH	An	1.75	(1.73)	0.24	0.50	凹	123
94	AH	An	(1.63)	(1.18)	0.32	0.50	凹	110
95	AH	An	(1.58)	(1.22)	0.19	0.30	Ш	109
96	AH	An	1.86	1.50	0.28	6.50	凹	84
97	AH	An	(1.93)	(1.48)	0.26	0.40	凹	175
98	АН	An	(2.26)	(1.61)	0.21	0.50	Ш	105
99	AH	An	(2.25)	(1.05)	0.25	0.50	凹	103
100	AH	An	(1.99)	(0.69)	0.28	0.40	[III]	168
101	AH	An	(2.01)	(0.82)	0.28	0.40	凹	124
102	AH	An	1.88	(1.28)	0.26	0.40	ГП	166
103	AH	An	(1.90)	(1.65)	0.25	0.50	Ш	81
104	AH	An	2.53	(0.96)	0.36	1.00	凹	80
105	AH	An	(2.09)	(1.88)	0.27	0.60	Ш	170
106	AH	An	(2.60)	(2.17)	0.39	1.30	凹	79
107	AH	An	(2.36)	1.80	0.40	1.00	Ш	83
108	AH	An	(2.50)	(1.90)	0.33	0.90	Ш	169
109	AH	An	(2.80)	(2.34)	0.43	1.50	Ш	77
	AH	An	(1.71)	(1.96)	0.29	0.90	凹	2
	AH	An	(1.67)	(1.82)	0.23	0.70	凹	10
	AH	An	(1.07)	(1.70)	0.21	0.30	Ш	16
	AH	An	(1.53)	(1.90)	0.49	1.30	凹	17
	AH	An	(1.85)	(0.97)	0.14	0.30	Ш	18
	AH	An	(1.12)	2.26	0.34	1.00	平	19
1	AH	An	(1.80)	(1.40)	0.21	0.40	凹	20
	AH	An	1.56	(2.36)	0.50	1.60	凹	21
	AH	An	(1.17)	(1.03)	0.24	0.30	凹	22
	AH	An	1.95	1.77	0.37	1.30	平	23
	AH	An	(1.88)	2.02	0.34	1.30	平	24
	AH	An	(2.01)	2.44	0.43	1.70	凹	25
	AH	An	(1.72)	(1.55)	0.22	0.50		26
	AH	An	(1.53)	(1.12)	0.24	0.30		27
	AH	An	(1.13)	(0.72)	0.21	0.20		28
	AH	An	(1.10)	(1.21)	0.20	0.20		29
	АН	An	(1.32)	1.63	0.37	0.60	凹	30
	AH	An	2.57	1.22	0.26	1.00	平	31
	AH	An	2.22	(1.19)	0.28	0.70		32
	AH	An	(1.42)	(1.42)	0.32	0.50	மு	33
	AH	An	(1.47)	(0.82)	0.23	0.30		34
	AH	An	(0.92)	(1.35)	0.24	0.20	凹	35
	AH	An	(1.55)	1.35	0.33	0.70	凹	36
	AH	An	(1.85)	1.31	0.40	0.90	平	37
	AH	An	1.53	1.29	0.23	0.50	平	38
	AH	An	(1.60)	(1.47)	0.28	0.40	凹	39
	AH	An	(0.90)	(0.67)	0.17	0.10	凹	40
	AH	An	(1.55)	(0.51)	0.23	0.20	凹	41
L	AH	An	(1.02)	(0.97)	0.22	0.20	凹	42

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
	ΑH	An	(1.01)	(0.95)	0.24	0.10	Ш	43
	AH	An	1.60	(1.24)	0.29	0.50	凹	44
	AH	An	(1.12)	(1.14)	0.28	0.20	凹	45
	AH	An	(1.23)	(0.82)	0.23	0.30	凹	46
	AH	An	(1.42)	(0.55)	0.21	0.20	凹	47
	AH	An	(0.61)	(0.53)	0.14	0.00	凹	48
	AH	An	(0.85)	(1.15)	0.24	0.20	匝	49
	AH	An	(1.10)	(0.93)	0.18	0.10		50
	AH	An	(1.37)	(1.34)	0.17	0.30	凹	111
	AH	An	1.93	(1.18)	0.21	0.40	凹	121
	AH	An	(0.76)	(0.81)	0.25	0.10	凹	147
	AH	An	(0.87)	(0.85)	0.19	0.10	凹	148
	AH	An	(1.43)	(0.84)	0.24	0.20	Ш	149
	AH	An	(0.98)	(0.99)	0.18	0.10	凹	150
	AH	An	(1.17)	(1.14)	0.18	0.20	凹	151
	AH	An	1.43	(0.90)	0.20	0.20	凹	152
	AH	An	(1.61)	(1.02)	0.37	0.40	凹	173
	AH	An	(1.10)	1.15	0.28	0.30	平	174
	AH	An	(1.86)	(0.88)	0.28	0.40	ш	176
	AH	An	(1.26)	(1.06)	0.28	0.20	凹	177
	AH	An	(1.56)	(0.75)	0.21	0.20	ш	178
	AH	An	(1.31)	(1.22)	0.28	0.30	ш	180
	AH	An	(0.63)	(0.70)	0.20	0.10		181
	AH	An	(1.47)	(0.77)	0.16	0.10		182
	AH	An	(1.25)	(1.05)	0.26	0.20	凹	184
	AH	An	(1.18)	(1.08)	0.18	0.10		204
	AH	An	(1.19)	1.11	0.28	0.30	平	205
	AH	An	(1.26)	1.20	0.34	0.40	凹	206
	AH	An	(1.73)	(0.82)	0.20	0.30	Ш	207
	AH	An	(2.20)	(1.58)	0.22	0.70		208
	AH	An	(1.99)	(1.58)	0.28	0.80	凹	209
	AH	An	(1.81)	(1.92)	0.24	1.00		210
	AH	An	(1.14)	(0.96)	0.28	0.30	Ш	215
	AH	An	(2.20)	(1.07)	0.25	0.60	Ш	216
	AH	An	(1.04)	(1.15)	0.34	0.30	Ш	217
	AH	An	(1.14)	(0.78)	0.21	0.20	Ш	218
	AH	An	(1.11)	1.15	0.25	0.40	平	219
	AH	An	(1.22)	(0.97)	0.21	0.20	·	220
	AH	An	(0.94)	(0:73)	0.15	0.10		221
	AH	An	(1.11)	(0.94)	0.21	0.20	凹	222
	AH未	An	(1.48)	1.20	0.20	0.40		140
	AH未	An	1.34	0.86	0.27	0.30		223
	AH未	An	2.04	1.65	0.36	1.20		224
110	TSc	An	(2.60)	5.02	0.68	7.70		52
111	TSc	An	4.26	5.80	0.79	14.50		54
112	TSc	An	4.09	6.94	0.72	16.10		56
113	TSc	An	6.94	2.96	0.90	19.20		55
114	異	An	3.74	3.55	0.78	8.80		57
115	異	An	2.74	2.28	0.46	2.20		53
116	SR	An	4.65	(4.88)	0.97	22.90		60
	SR	An	4.42	(5.74)	1.00	28.10		189
	SR?	An	(4.80)	(5.28)	1.07	32.80		9
	SR?	An	(2.93)	(2.85)	0.54	5.10		230
117	Sc	An	4.98	7.01	1.29	38.30		59
118	Sc	An	6.90	10.4	1.67	86.90		58

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
	Sc	An	9.04	3.72	1.63	39.80		5
ĺ	Sc	An	3.91	3.90	0.91	14.50		7
	Sc	An	2.25	4.31	0.56	4.70		11
	Sc	An	3.70	4.11	1.30	1.60		12
1	Sc	An	3.21	3.12	0.54	4.20		13
	Sc	An	3.92	5.26	0.78	23.10		14
	Sc	An	(4.24)	(2.59)	0.83	6.50		185
	Sc	An	3.44	2.66	1.02	8.50		232
	Sc	An	(2.07)	(3.99)	0.57	5.20		233
	RF	An	6.14	4.13	1.36	24.90		6
	RF	An	2.53	2.29	0.82	4.60		8
	RF	An	2.92	1.85	0.48	2.00		187
	RF	An	1.92	3.44	0.56	3.60		188
	RF	An	2.40	1.91	0.40	2.50		213
1	RF	An	3.40	4.25	0.71	11.50		214
	RF	An	1.83	1.65	0.30	1.00		234
	RF	An .	3.22	3.69	1.17	12.50		235
İ	RF	An	3.09	2.09	0.35	2.90		236
	RF	An	2.53	2.48	0.56	3.40		237
	RF	An	0.91	1.47	0.33	0.40		238
	RF	An	(1.06)	(2.54)	0.39	0.90		239
	RF	An	1.85	2.28	0.68	3.10		240
	RF	An	(1.83)	(1.36)	0.64	1.30		241
	RF	An	2.00	2.63	0.43	2.70		242
	RF	An	1.85	3.02	0.44	3.00		243
	RF	An	2.04	2.58	0.42	3.20		244
	RF	An	2.20	1.80	0.57	2.60	ĺ	245

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
	RF	An	1.77	3.64	0.76	4.70		246
	RF	An	2.63	3.36	0.99	12.40		247
l	PE	An	2.83	1.56	0.66	3.60		1.
	PE	An	3.54	2.94	0.69	7.20		3
	PE	An	5.45	2.79	1.17	19.00		15
1	PE	An	2.84	2.67	0.85	6.20		137
	PE	An	1.94	1.17	0.40	1.00		141
	PE	An	1.87	1.40	0.57	1.60		145
	PE	An	2.56	1.17	0.68	2.00		146
	PE	An	3.14	0.77	0.62	1.30		211
	PE	An	2.52	1.40	0.79	3.30		212
	PE	An	2.58	1.85	0.38	2.40		225
	PE	An	3.75	1.03	0.61	2.50		226
	PE	An	1.79	1.10	0.47	1.20		227
	PE	An	2.33	1.52	0.57	2.00		228
	PE	An	3.27	2.34	1.09	10.00		229
	PESp	An	3.55	0.88	0.46	1.40		142
	PESp	An	0.30	1.10	0.89	1.70		143
	PESp	An	2.52	1.16	0.52	1.20		144
	?	An	2.93	7.10	0.87	20.00		4
	?	An	(1.31)	(1.20)	0.31	0.60		138
	?	An	(1.05)	(1.05)	0.34	0.40		139
	?	An	(2.77)	(1.71)	0.59	4.00		186
119	Cr	An	2.95	7.00	1.74	38.00		61
120	Cr	An	2.80	6.47	3.85	47.50	İ	203
	Cr	An	2.44	3.69	0.75	5.60		248
	Cr	An	2.35	4.06	0.84	8.50		249

真弓池遺跡採集石器一覧表

	番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
ı	1	AH	An	1.23	1.05	0.25	0.20	Ш	7
١	2	AH	An	1.74	1.17	0.29	0.40	凹	6
ı	3	AH	An	1.87	1.47	0.42	0.90	Ш	5
ı	4	AH	An	2.09	1.23	0.22	0.40	凹	4
ı	5	АН	An	2.46	1.97	0.42	1.40	凹	3
ı	6	ΑH	An	2.58	2.07	0.34	1.30	ГП	2
ı	7	AH	An	2.18	1.47	0.42	1.10	凹	11
ı	8	AH	An	3.00	1.72	0.64	2.30	Ш	12
	9	AH	An	2.51	2.29	0.40	2.10	平	8
	10	AH	An	2.15	1.99	0.35	1.30	平	9
	11	AH	An	1.5	1.41	0.27	0.50	平	10

	番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
	12	AH	An	2.76	1.29	0.26	0.70	平	13
		AH	An	(1.15)	(1.02)	0.28	0.20	凹	14
	13	TSc	An	3.86	5.45	0.93	12.4		1
		Sc	An	2.59	3.56	0.52	4.30		15
i		PE	An	4.42	2.63	0.78	10.0		16
		PE	An	2.23	1.61	0.76	4.20		17
		PE	An	2.17	1.43	0.36	1.40		18
		PE	An	3.41	1.37	0.96	4.00		19
		PE	An	4.24	2.13	0.81	6.60		20
		PE	An	2.11	2.12	0.54	2.70		21
						-			

船元貝塚採集石器一覧表

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
1	AH	An	1.41	1.25	0.26	0.30	回	16
2	AH	An	(1.41)	(1.26)	0.21	0.20	凹	17
3	AH	An	1.62	(1.15)	0.26	0.30	凹	15
4	AH	An	(1.57)	(1.24)	0.23	0.30	ய	21
5	AH	An	1.92	1.47	0.30	0.70	凹	10
6	AH	An	(1.92)	(1.52)	0.28	0.50	凹	14
7	AH	An	2.07	1.45	0.32	0.50	凹	13
8	AH	An	(1.67)	(1.58)	0.27	0.70	凹	11
9	AH	An	(1.82)	(1.86)	0.32	0.80	Ш	9
10	AH	An	2.27	2.07	0.41	1.30	凹	7
11	AH	An	2.12	(1.57)	0.39	0.70	凹	8
12	AH	An	(1.52)	(0.85)	0.23	0.20	凹	18
13	AH	An	(2.02)	(1.40)	0.36	0.80	凹	12
14	AH	An	(2.37)	(1.57)	0.40	1.20	Ш	6
15	AH	An	2.32	(1.56)	0.44	1.50	平	31
16	AH	An	2.25	1.66	0.27	1.00	平	4

番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	型式	整理番号
17	AH	An	2.30	(1.71)	0.43	1.20	平	3
18	AH	An	(1.84)	1.88	0.35	1.20	平	5
19	AH	An	(2.61)	1.96	0.43	2.70	平	2
20	AH	An	3.68	2.64	1.02	9.00	平	1
	AH	An	(1.14)	(1.46)	0.30	0.40	凹	22
	AH	An	(1.37)	(1.39)	0.27	0.40	凹	23
	AH	An	(1.25)	(1.10)	0.28	0.30	凹	24
	AH	An	(1.21)	(1.26)	0.21	0.40	Ш	25
21	Dr	An	(2.49)	1.26	0.37	0.90		19
22	Dr	An	(1.98)	1.05	0.29	0.50		20
	Sc	An	1.67	2.73	0.49	1.70		26
	PE	An	1.84	0.82	0.65	1.20	1	28
	PE	An	2.17	1.60	0.60	1.60		29
	PE	An	1.97	1.37	0.57	1.90		30
	PESp	An	2.08	0.55	0.42	0.40		27
ĺ								

2. 須恵器観察表

遺跡名	番号	器種	法量(cm)	技法上の特徴	胎土	色	調	焼成
船元貝塚	23	坏蓋	器径 10.6 器高 3.5	外面天井部はヘラケズ リの後ナデ その他はナデ 轆轤は右回り	1mm大の長石、0.5mm大の 石英を多く含む	内 N5/ 外 N6/	灰色 灰色	良
船元貝塚	24	坏身	口径 12.3 器高 3.6	内面・外面ともにナデ	0.5mm大の長石をわずか に含む	内 2.5Y7/1 外 2.5Y7/2	灰白色 灰黄色	良
船元貝塚	25	平瓶	器径 12.3 現存高 10.5	外面底部はヘラケズリ の後ナデ 轆轤は左回り 胴部上半はカキ目調整	0.5mm大の長石、2mm大の 石英を多く含む	外 7.5Y7/1	灰白色	良
熊坂窯跡	1	坏身	復元径 9.4 器高 3.3	外面底部にヘラケズリ その他はナデ 轆轤は右回り	0.5~1mm大の石英をわず かに含む	内 N3/ 内 N3/	暗灰色 暗灰色	良
熊坂窯跡	2	坏身	口径 9.3 器高 4.2	外面底部にヘラケズリ その他はナデ 轆轤は左回り	0.5~2mm大の長石を含む	内 N4/ 外 5Y6/1	灰色 灰色	良
熊坂窯跡	3	高坏	脚径 8.1 現存高 5.3	内面・外面ともにナデ	0.5mm大の長石を含む	坏内 5Y7/1 脚内 N6/ 外 N6/	灰白色 灰色 灰色	良
熊坂窯跡	4	高坏	口径 15.0 現存高 5.7	内面・外面ともにナデ	0.5~2mm大の石英を多く 含む	内 5Y7/1 外 2.5GY7/1 明オリ・	灰白色 l ーブ灰色	良
熊坂窯跡	5	不明	_	内面・外面ともにナデ 外面には櫛描文	0.5mm大の長石・石英を 多く含む	内 5Y6/1/ 外 5Y6/1	灰色 灰色	良

(色調は『新版標準土色帳』1995年後期版による)

倉敷埋蔵文化財センター年報 5 - 平成9(1997)年度 -

平成10年7月31日 印刷発行

編集・発行

倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046 岡山県倉敷市福田町古新田940 番地 TEL.086-454-0600

The Annual Report Of Kurashiki Archaeological Center

Volume 5 1997



Kurashiki Archaeological Center